

日本におけるキリスト教の歴史は、イエズス会の東方伝道者フランシスコ・ザビエルがアンジロウなる日本人を案内人にシナのジャンク船に乗って鹿児島に着いた時、すなわち、洋暦1549年8月15日、邦暦天文18年7月22日から始まる。以後1639年、寛永16年の鎖国に至るまで約1世紀間、いわゆる〈キリシタン世紀〉⁽¹⁾が続くことになるが、その前半はポルトガルをバックにして来日したイエズス会のバテレンたちが九州から京畿にかけてキリスト教の伝道に従事した時代である。1569年、イエズス会士ルイス・フロイスは織田信長から京都在住ならびに布教を許可されている。翌1570年、スペイン人はマニラを占領し、シナ・日本への布教を企て始め、スペイン国王の保護のもとにある托鉢修道会士は1584年、初めて来日した。しかしその翌年にはイエズス会の巡察師アレサンドロ・ヴァリニャーノの要請によって、教皇グレゴリオ13世は日本の伝道をイエズス会に限る勅書を發布している。スペイン側バテレンの渡来によって、布教上の混乱を来たすのを避けようとしたためである。しかし、2年後にはイエズス会のバテレンたちも、豊臣秀吉によって発せられた禁教令（1587年）のため公然と布教することはできなくなってしまった。

1591年秀吉はフィリピンに対して日本入貢を促す威嚇的な書状を送った。その第2次使節として1593年フィリピン総督より派遣されたフランシスコ会のバテレン、ペトロ・パプチスタ、同会イルマンのゴンサーロ・ガルシアらは京都に上ると当初からの目的であった布教活動を始め、さらに大阪・堺・長崎まで

も進出して、貧民を対象とする、いわゆる〈下からの布教〉を活潑に行なった。イエズス会のバテレンたちがこれら托鉢修道会士に深い憂慮を示したことは言うまでもない⁽²⁾。1596年8月、日本司教ベドロ・マルチンスがインド副王の書状を携えて長崎に到着、翌月、在日フランシスコ会士の退却を命じた。折しも同年10月、マニラからメキシコに向っていたスペインの〈サン・フェリーベ号〉が土佐の浦戸湾に漂着、秀吉はその積荷の没収を命じた。この時、この処置に憤慨したサン・フェリーベ号の航海士はスペインの国力を誇示し、スペイン人はバテレンを派遣して外国の領土を侵すと発言したと伝えられるが、これが秀吉を刺激し⁽³⁾、この放言と天正禁止令とを口実に、彼に謁した司教マルチンスが離京した直後、1596年12月9日、京都・大阪にある修院の包囲とバテレン・信者の名簿作製を命じた。間もなく捕縛が開始され、ベドロ・パプチスタを初めとする6名のフランシスコ会士（外国人）と3人の少年を含む18名の日本人信徒が縛についた。翌年1月3日、24名は左耳の一部を切られた上、牛車に乗せられ京都の街街を引きまわされ、翌4日伏見・大阪とたらい回しにされた後、1月9日堺を出発して長崎へ護送された⁽⁴⁾。道中さらに2名がむりに加わり、一行26名は2月5日の朝長崎に着き、その日のうちに西坂の丘で磔刑に処せられた⁽⁵⁾。日本暦の慶長元年12月19日のことであった。ザビエルの渡来から48年目に起きた日本最初の殉教である⁽⁶⁾。

26名の殉教者中20名は日本人であるが、そのうちの1人三木パウロは早くからイエズス会

のイルマンであり、五島ジョアンとき齋ディオゴの2人は殉教の直前にイエズス会のイルマンとなった。残りの17名の日本人はフランシスコ会第3会員かまたはフランシスコ会の会友で、京都・大阪・尾張・伊勢その他出身の平信徒である。6名のフランシスコ会士はバテレン・イルマン各3名で、そのうち4名がスペイン人、残りの2名はインドとメキシコで生まれている。これら26名の殉教者の名前は、松田毅一氏の研究⁽⁷⁾に従うと次の通りである。ペドロ・バプチスタ、マルティン・デ・ラ・アセンシオン、フランシスコ・ブランコ、フランシスコ・デ・ラ・バリラ（デ・サン・ミゲル）、ゴンサーロ・ガルーシア、フェリーベ・デ・ヘスス（デ・ラス・カサス）、三木パウロ、五島ジョアン、き齋ディオゴ、鈴木パウロ、同宿ガブリエル、絹屋ファン、伊勢・談義トメ、薬師^{アスシ}フランシスコ、同宿こぎきトメ、榊原ホアキン、同宿ベントゥーラ、鳥丸レオン、マチーアス、同宿アントニオ、同宿ルイス、茨木パブロ、こぎきミゲル、助じ郎ペドロ、たけ屋コスメ、フランシスコ・ガヨ。

この日本における最初の大殉教事件は、イエズス会士ルイス・フロイス⁽⁸⁾、フランシスコ会士マルセロ・デ・リバデネイラ⁽⁹⁾、スペイン商人アビラ・ヒロン⁽¹⁰⁾、フランシスコ会士ファン・ホーブレ⁽¹¹⁾、日本司教ペドロ・マルチンス⁽¹²⁾など事件当時長崎にあった外国人や、在日していたフランシスコ会士ジェロニモ・デ・ジェズース⁽¹³⁾の報告を始めとして古今東西の幾多の文献⁽¹⁴⁾に記録されてい

る。これらの殉教に関する根本資料のうち最も詳細かつ正確なものは、比類なき日本通であったバテレン、フロイスの1597年3月15日付イエズス会総長宛の書翰である。彼は刑場に立合うことはできなかったが、しかし殉教直後遺骸を仰ぎ、多数の証人から資料を集めて報告書を作製した。現在ローマのイエズス会文書館にあるフロイス自署のスペイン語書翰（*Jan. Sin. 53. ff. 1-71*）は、1935年に至ってR. ガルドス師により公刊されたが、それに由来する刊本は、若干要約された形ではあるが、すでに1599年、ローマ⁽¹⁵⁾・ミラノ⁽¹⁶⁾・マインツ⁽¹⁷⁾で、さらに1628年ミラノ⁽¹⁸⁾で出版されている。1597年長崎における殉教に関する刊本の中で最も早いものは、殉教の翌年、つまり1598年にローマ／ベルギー⁽¹⁹⁾、およびセヴィリア⁽²⁰⁾で出版されたフランシスコ・テリョの報告書⁽²¹⁾であるが、これは26殉教者中の6名のフランシスコ会士のみに関するものである⁽²²⁾。1600年・1601年にはナポリ⁽²³⁾およびマドリード⁽²⁴⁾でフランシスコ会士ファン・デ・サンタ・マリアの『6名のフランシスコ会士・3名のイエズス会士および17名の日本人信徒の殉教』が刊行されている。一方バルセロナでは同年、フロイスの報告記録と並んで極めて貴重な、26名の殉教録を含むマルセロ・デ・リバデネイラ（フランシスコ会士）の『アジア布教史』⁽²⁵⁾が出版された。

1598年から1601年までヨーロッパ各地で相次いで刊行された日本の26殉教者関係の出版は、1627年になって再び活潑になる。東洋の使徒フランシスコ・ザビエルが列聖されて5年後

の1627年9月14日、教皇ウルバノ8世は26殉教者中のフランシスコ会士6名ならびにフランシスコ会と関係のあった日本人平信徒17名、合計23名を列福したからである。残るイエズス会士3名も1629年同じく福者とされた。フランシスコ会関係の23人が列福された1627年には、マドリード⁽²⁶⁾とミラノ⁽²⁷⁾でこれら23殉教者の殉教録が刊行されたが、一方、あたかもこれに呼応するかのよう、翌年にはモデナ⁽²⁸⁾とミラノ⁽²⁹⁾で3イエズス会士の殉教録が3種類も出版されている。同じ1628年にはまた、モンティラ(スペイン)で23殉教者に関する殉教録⁽³⁰⁾、ミラノ⁽³¹⁾・セヴィリア⁽³²⁾・ドゥエ⁽³³⁾(フランス)で『26名の殉教録』の刊行をみている。

このように、1597年の長崎における殉教関係の書物は殉教1年後以来ヨーロッパ各地で出版されてきたが、殉教場面を表わす版画扉絵が添えられたのは、1628年にイタリアとフランスで刊行された次の3書がその始めであった。すなわち、ミラノ刊フロイス著『26人の輝ける死についての報告』(本カタログ4参照)、モデナ刊『3イエズス会士の輝ける死についての小報告』(19)、ドゥエ刊『フランシスコ会の23殉教者および3イエズス会士の生涯と死』(2)である。これらの版画扉絵(ドゥエ刊のそれには1627年の年記がある)は、現在我々が知る限り、年代が確定している最も早い、1597年の殉教に関する作例に数えられる。17世紀に制作されたこのテーマの作例の中で、1627年の列福式以前の確証ある作品は現在伝えられていないからである⁽³⁴⁾。

ナンシー(ロレーヌ)のフランシスコ会のために制作されたジャック・カロの一枚刷りエッチング(国立西洋美術館蔵、3)も、そこに表わされた23殉教者たちがニプスをつけているので、恐らく1627年の列福式を記念したものと思われる。この作品は、17世紀から今世紀に至るまで制作された数多くの、1597年の殉教者を表わす作例中、芸術的に最も優れた作品のひとつであり、すでに当時から広くゆき渡っていたものと思われる。この作品において図像学的に注目されることは、棕櫚の枝と月桂冠とを殉教者たちに用意する天使ケルビムが洗者聖ヨハネに導かれていること、および、十字架を、他の多くの作例のように(例えば、本カタログ8, 12, 38, 39, 44)横一列に並べるのではなくて、二列にわけて遠近法的に重ねている点などである。これと同じような十字架の配し方は、すでに触れた1628年・ミラノ版のフロイスの著書に添えられたジョヴァンニ・ピエトロ・ピアキの銅版扉絵(4)や、北イタリアの画家タンツィオ・ダ・ヴァラロ(1635年頃歿)の油彩画(5)にも見られるが、特に後者は、二列の十字架の中央に、1597年の殉教者の頭ペドロ・バプチスタを配する点でカロ作品により類似し、恐らくその影響を受けたと思われる⁽³⁵⁾。カロの殉教図は殉教当時長崎にいた報告者たちの記述と必ずしも一致していないが、しかし却ってその故にこそ芸術的魅力を備えているともいえるだろう。例えば、カロの銅版画では、立ち並ぶ十字架の下にひしめき合う群衆の姿が生き生きと表現されているが、しかしフロイスは「でうすのこれら教役者はくる

すの用意してある現場に着いた時、半三郎は直ちに鉄砲、槍手でくるすの立ててある周囲を整然と取り囲ませた。彼等はくるすから七八歩離れた場所にて、獄吏、役人の外は一人もくるすに近い中央部に入れなかった。武器の他に太い棒を持った数人のものが出て、何人も近づけないようその棒を振り廻した。」(新井トシ訳、第16章、157頁)と記している⁽³⁶⁾、また、各殉教者の配置については、「名樹は各々三四歩の間隔を置き、市街に背をむけて、恰もでうすにその市の守護を願うかのように一列にくるすに掛けられた。フライ達の右側に十名の日本人、左側に十人、その中に吾らの三名のいるまんが交り、真中に六名のフライが位置した。」(新井訳、第16章、165頁)と報告されている⁽³⁷⁾。一方、ピアンキの扉絵はフロイスの26殉教者録のためのものであるだけに、史実をカロより忠実に表わしている。ここでは下部の銘からも明らかのように、十字架の中央部に6名の外国人フランシスコ会士が配され、また、フロイスに「例外は二人のばあでれ、即ちフランシスコ・パシオとファン・ロドリゲスで、半三郎と長崎代官の許可を受けて被刑者を励ますため絶えずくるすの近くにいた」(新井訳、第16章、157頁)と述べられているように⁽³⁸⁾、2名のイエズス会バテレンも描かれている。刑吏の数および槍の突き方についてフロイスは、「四名の獄吏は直ちに槍を刺すため鞆……を払った。……四名は走りながら全員に槍を刺した——二人の中の一人は被刑者の左側から、他は右側から槍を刺した。」(新井訳、第16章、159頁)と述べている⁽³⁹⁾が、これら

の点でもピアンキの銅版画はフロイスの記述に従っている。しかしこの扉絵において殉教者たちは、興味深いことに、一人も、カロの版画にみられるようなフランシスコ会の服装をしていない⁽⁴⁰⁾。ピアンキの版画はイエズス会系の出版物に添えられた扉絵であるからである。

日本布教時におけるイエズス会とフランシスコ会の対立についてはすでに触れたが、それはまた、ヨーロッパにおける26殉教者関係の刊本の場合にもいえることもすでに見た通りである。エミール・マールは『トレント公会議以後の宗教美術』(初版1932年)⁽⁴¹⁾の中で、8点ほど26殉教者関係の作例を挙げ、そこにイエズス会とフランシスコ会の対立をすでに指摘しているが、事実、美術においても両修道会の宗派争いの反映がみられる。つまり、26名の殉教者全員が列聖される1862年までは、26人が揃って表わされることはむしろ例外的であった。列聖式以前の26人全員の殉教図としては、前記のピアンキによる銅版扉絵(1628年ミラノ刊、4)、近年坂本満氏によって紹介された、イエズス会士ベトロ・ビヴェリウスの著作(1634年アントワープ刊)の銅版挿絵(6)、およびメキシコのクエルナバカ大聖堂の壁画(17世紀前半、8)が挙げられるに過ぎない。

日本では17世紀に入ってキリシタンへの迫害はますます凄絶を極めた。日本の殉教者たちの悲劇は次々にヨーロッパに伝えられ、カトリック教徒の心を強くゆさぶった。迫害に直面したキリシタンたちの英雄的な殉教行為

は、いわゆる〈いけにえなるが故の勝利者〉(Victor quia victima) というキリスト教的パラドックの具現であったと同時に、エキゾチズムの香りを放ってバロック信徒の心を奪ったのである。日本はキリシタンの殉教によって却ってヨーロッパ人の意識のうちに潜入していったとも言えよう。事実、日本のテーマはバロック劇に少なからぬ役割を演じている。イエズス会は布教地の殉教者を好んで舞台にのせたが、トーマス・インモース師の研究⁽⁴²⁾によると、1605年から1836年にかけて、高山右近、大友宗麟、有馬のプロタジウス、豊後のティトゥスなどを主人公とした日本劇が164回、全ヨーロッパにまたがって上演されたのであった⁽⁴³⁾。1597年の長崎の殉教者に関する、1628年北フランスのドゥインケルケンで *Het Christen-Saet van Japonien oft de Martelie van Paulus Michi, Johannes de Goto, ende Didacus Guizai, Japonosisen* と題する3イエズス会士の殉教劇が上演され、また、ベルギーのトゥルネーでも1630年、日本の3イエズス会士の殉教劇 (*Martyrium trium e Societate Japonensium*) が行われた記録が残されているのである。

日本のテーマ、とりわけ日本の殉教者のそれは、17世紀ヨーロッパにおける刊本や演劇におけるのみならず、美術においても好んで取り上げられた。バロックのイタリアでは、É. マール、A. ビグラー⁽⁴⁴⁾、L. レオー⁽⁴⁵⁾ などによって指摘されたように、カミロ・ラーマ(1622年以後歿、1)、タンツィオ・ダ・ヴァラロ(1635年歿、5)、フランチェスコ・マフェイ(1660年歿、53)などによってフランシ

スコ会関係23人の殉教図が描かれ、また、ジョヴァンニ・ランフランコ(1647年歿、20)、カヴァリエーレ・ダルビーノ(1640年歿、21)、カニャッチ(1681年歿、24・25)、ロレンツォ・パシネリ(1700年歿、26)といった画家も3イエズス会士の磔刑図を残している。

スペインおよびその植民地ペルーにおける作例については、すでにディエゴ・パチョコ師によってその一部が紹介されている⁽⁴⁵⁾。スペインでは、17世紀に著しい発展をみせたイエズス会の教会に3イエズス会士の彫像が置かれたが、そのうち、フランシスコ・ディアス・デル・リベロ(1630年頃の作品、58)やアロンソ・デ・サアヴェドラ(1670年の作品、59)による、殉教のシンボル、十字架を手にしているイエズス会士の木彫を始めとして、ファン・デ・メサ(1627年歿)に帰せられる、優れたイエズス会士像(81)、18世紀に活躍したマルセリーノ・ロルダン(82)やペドロ・ドゥケ・コルネホ(83)の手になるイエズス会殉教者の木彫が特に注目に値する。

ペルーでもすでに1630年、ラザロ・バルド・デ・ラゴスなる画家によってフランシスコ会関係の23殉教者の絵が2点(9・10)制作されている。ペルーでは特にリマに作例が多い。リマの聖フランシスコ修道院廻廊の柱にはめこまれたセヴィリア製の陶板(17世紀前半、11)には、磔刑にあう23人の日本の殉教者の姿が見出されるが、その描写は歴史的事実に極めて忠実である。すなわち、フロイスが「主は手足を留めるに釘を刺込まれたが、彼等は手足を鉄輪で留めて傷は受けなかった。」(新井訳、第16章、156頁)と報告している

ように、この陶板でも殉教者の手足は鉄の環で抑えられている。

1597年の長崎における殉教者の姿は、1627年・1629年の列福式以後、ローマで1646年に刊行されたアントニオ・フランシスコ・カルディムの『日本殉教精華』(ビエール・ミヨットの銅版画入り、22)や、ブラハで1676年出版されたマティアス・タンナー著『イエズス会殉教者伝』(メルヒオール・キュセルの銅版画入り、29)など、ヨーロッパ各地で刊行されたイエズス会関係の書物にその挿絵として登場しているが⁽⁴⁶⁾、これらのうちでとりわけ興味深いのはミュンヘンで1674年に出版された3イエズス会士の殉教録にみられる小型の銅版扉絵(28)である。これは、恐らく当時有名であった、スヘルテ・アダムス・ホルスヴェルト(フランドルの銅版画家、1659年歿)による一枚刷りエングレーヴィング(国立西洋美術館蔵、27)を縮小コピーしたものに他ならない。ホルスヴェルトの作品は、カロ(3)のものと同様に、1597年の長崎の殉教者を表わす最も優れた版画作品に数えられる。

18世紀においては、26殉教者関係の作品は17世紀における程多くは制作されなかった。この時代の代表的作例としては、フランソワ・フーシェの初期の作品と考えられる、3イエズス会士の殉教を表わす油彩画(31)ならびにそのエングレーヴィング・コピー(ローラン・カールによるもの、32)、および、マニラで1744年に刊行されたファン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『フランシスコ会年代記』の扉絵・挿絵2点(13・14)が挙

げられる。サン・アントニオの年代記に添えられた、フランシスコ会関係23人の磔刑を表わすこれら2点の版画は、史実に最も忠実かつ詳細な殉教図に数えられるものである。因に、フロイスは「現場にいた葡萄牙人及び日本人の情熱は信じられないものがあつた。彼等は獄吏が槍を刺した時天まで届くような大声で啼泣し、未だ生々しく慄えているきんとすの死体から流れ出る血を手布に、或いは又着物の裾に受けんとて獄吏(監視人の殴打をもとせぬ)の間を疾走した」(新井訳、第16章、161頁)と述べ、また、「神は道中掲げながら運んできた王の宣告文を書いた立札(……)を直ちにその場所に立てるよう半三郎に命じた。」(新井訳、第16章、159頁)と報告しているが⁽⁴⁷⁾、年代記の版画における殉教者の血を受ける目撃者、および宣告文を書いた立札といったモチーフのみならず、画面前方の隅に描かれた日本司教ペドロ・マルチンスの姿も史実と無関係のモチーフではないのである⁽⁴⁸⁾。

1861年12月23日、教皇ピオ9世は1597年の長崎の殉教者のうち、フランシスコ会関係の23名の諡聖を許可する旨宣告し、翌年3月25日、イエズス会の3人の殉教者に対しても同様の宣言が行われた。次いで同年6月8日、26殉教者の列聖式がサン・ピエトロ大聖堂において挙行された。列聖式の模様は当時の出版物によって知りうるが、大聖堂内部は殉教のエピソードを描いた多数の絵で飾られていた(33・89はその一部)という。日本のカトリックの歴史を通じて初めて聖人に列せられた

これら26殉教者に対する崇敬はこの機会に再びにわかに高まり、1862年だけでもローマ・ブレダ・バリ・リール・ルツェルン・マドリード・ヴァレンシア・マインツ・トゥールーズ・ダブリンなどで17種以上の書物が刊行された⁽⁴⁹⁾。これらのうち、扉絵があるものは、アグスティノー・ダ・オシモ著『日本フランシスコ会23殉教者伝』(ローマ刊、ニコラ・モネータの銅版扉絵入り、15)、ジュゼッペ・ボエロ著『日本イエズス会3聖人の生涯と殉教』(ローマ刊、64)、ダブリンで刊行された『3イエズス会殉教者の生涯と殉教』(68)、エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラールス著『日本26殉教者伝』(マドリード刊、トマス・カルロス・カプスおよびホアキン・マギストリスの版画表紙・挿絵入り、37・38)などであるが、美術史的に注目されるのは、N.A.A. アウセムス著『聖ペドロ・バプチスタ伝』(ブレダ刊、39)、D. ブイー著『日本26聖人史話』(パリ/リヨン刊、40)、および、M. ド・モンロン著『日本聖殉教者』(リール/パリ刊、41)の版画扉絵である。これら3点の作例のうち、後の2例はいずれもオーギュスト・ボントゥニエなるパリの複製木版画家の手になるものであり、それらは、アウセムスの著書の扉絵とほぼ完全に一致している。これらのうちのどれかは、明治の中頃日本にも知られていたとみえ、1887年(明治20年)大阪で刊行された『日本廿六聖人致命略伝 全』(42)の扉絵にコピーされている。この銅版扉絵の彫師は石田有年であるが、彼はまた、同年京都で出版されたピリヨン師の『日本聖人鮮血遺書』(43)のために極めて日本的な

26聖人磔刑図を残した。これら石田有年による銅版画作品は日本人最初の26聖人殉教図といえよう。

19世紀においては、長崎の26人の殉教者たちは聖人に列せられたとはいえ、彼等の姿は17世紀におけるようには名のある画家たちによって描かれることは最早なかった。そして、今世紀に入ってから、岡山聖虚(91)、中田秀和(47・48・93)、長谷川路可(50・51・94)、愛久沢勇悟(92)、舟越保武(95)などが26聖人をテーマとした作品を残しているが、他方、外国人作家による作品は極めて少ない。

本稿は、1597年の長崎における日本最初の大殉教場面およびその殉教者をテーマとする東西の美術作品の資料収集を主眼としたが、しかし、26殉教者を単独に表わす作品は本カタログから割愛した。例えば、ペドロ・バプチスタを称える作品はその生地スペインに多く、また、フェリーペ・デ・ヘスを表わす作例はメキシコに少なくないが、これらについては別の機会に譲りたい。ただ、ここでは、近年日本にもたらされた2点の油彩画(挿図参照)について触れておきたい。日本26聖殉教者を保護の聖人とする東京・本所教会の聖堂には現在、ペドロ・バプチスタおよびフェリーペ・デ・ヘスの半身像油彩画(カンヴァス、90.5×68.5cm および 76.5×65.5cm)が掛けられているが、これらは元アッシジ近郊のホルツィウンコラの修道院にあったもので、一説に列福式(1627年)のとき制作されたものといわれている⁽⁵⁰⁾。



東京・本所教会蔵（アッシジ近郊ホルツィウンコラ修道院旧蔵）油彩画（17世紀?）：ペドロ・バプチスタおよびフェリーペ・デ・ヘスス
Tokyo, Kirche von Honjo: Ölgemälde (17. Jh.?) aus dem Kloster Portiunkula bei Assisi — Pedro Baptista und Felipe de Jesus

註 Anmerkungen

- (1) C. R. Boxer, *The Christian Century in Japan, 1459–1650*, Berkeley 1951 (Second edition, 1967). <キリシタン世紀>の評価については J. Wh. Hall, *Das Japanische Kaiserreich*, Frankfurt a. M. 1968 (J. ホール著尾鍋輝彦訳『日本の歴史 上』, 講談社, 1970年, 220頁)の興味深い指摘を参照。
- (2) この修道会同士の争いの問題については, 岡本良知「日本耶蘇会とフィリッピンの諸修道会との論争——26聖人殉教の遠因として」, 『キリシタン研究』III, 吉川弘文館, 1948年, および, 松田毅一『南蛮のパテレン——東西交渉史の問題をさぐる』, NHK ブックス 122, 1970年を参照。
- (3) この事件については, 松田毅一「サン・フェリーペ号事件の再検討」, 『清泉女子大学紀要』14号, 1966年を参照。
- (4) 京坂で捕えられて長崎に送致された経過と路程については, D. Pacheco, *Notas sobre la ruta de los 26 Santos mártires de Nagasaki*, Madrid 1960 [ディエ

ゴ・パチェコ (岩谷十二郎訳)「日本二十六聖殉教者の旅路に関する覚え書」, 『キリシタン研究』VIII, 1963年, 40–86頁]; 片岡弥吉「最後の道」, 『キリシタン研究』VIII, 1963年, 87–105頁; ディエゴ・パチェコ『長崎への道——日本二十六聖人』, 二十六聖人記念館, 1971年に詳述されている。

(5) 殉教の場所が今日の西坂公園のところであるとの考証については, 片岡弥吉「廿六聖人殉教の位置とその崇敬」, 『長崎談叢』第37輯, 藤木博英堂, 1955年を参照。

(6) 1597年の長崎における殉教に関する1868年(明治元年)以後の国内外の珍しい文献については, 松田毅一編『日欧交渉史文獻目録』, 1965年, および松田毅一「日欧交渉史文獻目録続篇」, 『清泉女子大学紀要』16, 17, 18, 19, 20号, 1968–1972年を参照。欧文による紹介書としては, E. Hamaguchi, *The Twenty-six Martyrs of Japan*, Nagasaki 1949; G. Huber, *Kreuze über Nagasaki—Den sechszwanzig Erstlingsmartyrern Japans zum Gedächtnis*, Werl 1954; D. Pacheco, *Nagasaki—La colina de los Martires, Separata de Missionalia Hispanica XVII–51*, Madrid 1960; J.

Escobar, *Los Veintiseis Martires de Japon*, Delegacion General O. F. M. de Japon 1961 などがある。

(7) 松田毅一「日本二十六聖人の人名について」、『キリシタン研究』VIII, 1963年, 3-39頁。

(8) *Relación del Martirio de los 26 cristianos crucificados en Nangasaqui el 5 Febrero de 1597*. P. Luis Frois S. J. (Autor). P. R. Galdos S. J. (Editor). Tipografía de la Pontificia Universidad Gregoriana. Roma, 1935. これの邦訳に新井トシ訳註「フロイス日本二十六聖人殉教記, R. Galdos 編」、『日本文化』三二, 三三, 三四, 三五号(1952-1955年), および浦川和二郎「日本二十六聖人の殉教——フロイスの報告書より」、『聲』第838, 1947年があり, また, 本書翰の研究に次のものがある。D. Schilling, *Zur Geschichte des Martyrerberichtes des P. Luis Frois, Archivum Historicum Societatis Jesu*, VI, Roma 1937, 107-113.

(9) *Historia De Las Islas Del Archipelago, Y Reyno De La Gran China, Tartaria, Cvchinchina, Malacu, Sian, Camboxa Y Iappon ... Compvesta Por Fray Marcello Deribadeneyra companero de los sey frayles hijos de la misma Prouincia Martyres gloriosissimos de Iappon ... Em Barcelona ... Año M. DCL. [Laures (文献略号表参照) 253 (151)]*. なお本書は1947年マドリッドで新たに公開されている。邦訳に次のものがある。佐久間正(訳)「日本二十六聖人伝記」、『横浜大学論叢』人文科学系列第10巻(1958年)第2号; 同第11巻(1959年)第1号・第2号。佐久間正訳「マルセロー・デ・リバデネイラの報告記録」、『横浜市立大学論叢』第12巻(1960年)人文科学系列第1号, 第2, 3号合併号; 第13巻(1961年)第1号, 第2, 3号合併号; 第14巻(1963年)第1号, 第2, 3号合併号; 第15巻(1964年), 第1号。佐久間正訳「マルセロー・デ・リバデネイラの報告記録——日本二十六聖人殉教後の経過(一), (二)」、『キリスト教史学』XVIII, XIX, 1966年。マルセロー・デ・リバデネイラは, 殉教当時長崎に滞在していたのであるが, 禁足を命ぜられてボルトガル船内に留まっていた。ここから彼は殉教を目撃した。

(10) Bernardino de Avila Giron: *Relación del Reino de Nippon a que llaman corruptamente Japon*. 全編23章からなるこの『日本王国記』の第15章半ばまではシリング師とレハルサ師により刊行されている。D. Schilling—F. de Lejarza, *Relación del Reino*

de Nippon por Bernardino de Avilla Giron, *Archivo Ibero-Americano*, Vol. 36(1933), Vol. 38(1935)。全23章の邦訳として, 佐久間正訳・註, 会田由訳, 岩生成一註「アビラ・ヒロン 日本王国記」、『大航海時代叢書』XI, 岩波書店, 1965年がある。

(11) Juan Pobre de Zamora: *Histoia de la pérdida y descubrimiento del Galeón San Felipe con el gloriosa martirio del Japon*. Año de 1597. (Ms. en poder de D. Antonio Graiño).

(12) フーベルト・チースリク「日本二十六聖人殉教関係史料」(British Museum 所蔵), 『キリシタン研究』VIII, 1963年, 111-135頁。

(13) L. Pérez, Fr. Jerónimo de Jesús, *restaurador de las misiones del Japon: sus cartas y relaciones (1595-1604)*, *Archivum Franciscanum Historicum*, XVI, 1923, 507-544. 同書の中にある日本26殉教者に関する記録の邦訳に, 佐久間正「西班牙古文書 日本二十六聖人殉教録(ジェロニモ・デ・イエス書翰並びに報告)」、『横浜市立大学紀要』, No. 26, 1954 がある。

(14) 殉教直後, マニラにおいて作製されメキシコに送付された殉教報告書に *San Felipe de Jesús, Protomartir Mexicano (Extracto de las Informaciones auténticas para la Beatificación de los veintiseis Mártires del Japon, publicado por primera vez en la "La Semana Católica", México 1898)* があり, その邦訳に, 佐久間正訳「サン・フェリーベ・デ・ヘスース——日本二十六聖人殉教録」、『キリスト教史学』IV, 1953年がある。その他の史料に関しては, 松田毅一「日本二十六聖人の人名について」、『キリシタン研究』VIII, 1963年, 3-10頁を参照。日本側の記録については, 海老沢有道「26聖人関係日本文献」、『望楼』II-1, 1947年; 海老沢有道「日本二十六聖人関係日本文献」、『キリシタン研究』VIII, 1963年, 137-175頁を参照。

(15) *Relatiline Della Gloriosa Morte Di XXVI Posti In Croce ... Mandata dal P. Luigi Frois alli 25. di marzo ... Et fatta in Italiano dal P. Gasparo Spitilli di Campli ... In Roma ... 1599. [Laures 237 (141)]*.—*Trattato D'Alcuni Prodigii Occorsi L'Anno M. D. XCVI. Nel Giappone. Mandato dal P. Luigi Frois ... Tradotto in Italiano dal P. Francesco Mercati ... In Roma ... M. D. XCIX. [Laures 239 (142)]*.

(16) *Relatione Della Gloriosa Morte Di XXVI. Positi in Croce ... Mandata dal Padre Luigi Frois ...*

In Milano ... 1599. [*Laures 238*].

(17) De Rebus Iaponicis Historica Relatio, Eaqve, Triplex: I. De gloriosa morte 26. crucifixorum. II. De Legatione Regis Chinesium ad Regem Iaponiae, ... III. De rebus per Iaponiam anno 1596. a PP. Soc. Iesv durante persecutione gestis. A R. P. Lvdo-vico Frois Societatis Iesv ... Mogvntiae ... M. D. CIX. [*Laures 235 (139), 243*].—Drey Japponische Schreiben.//Das erst.//Was massen 26. Geist//liche vnd Weltliche Personen/vmb//Christi willen/am Creutz getödt.//Das ander.//Inhalt etlicher Wunder vnd schreck-//lichen fürgelauffenen Zeichen.//Das dritt//jahrschreiben/was die Societet Jesu im 96. Jahr in deß//Heren Weinberg außgericht.//An den E. P. Claudium Aquaiuum//der Societet//Jesu Generaln//durch Ludouicum Fros auß//Jappon gethan.//Auß//Italienischer/in die Hochdeutsche//Sprach vbersetzt. //Getruckt zu Meyntz/bey Johan Albin.//M.D. XCIX. [*Laures 240 (143)*].

(18) 本カタログ4参照。Siehe Kat. Nr. 4.

(19) Relazione Mandata Da Don Francesco Teglio ... intorno al Martirio de i sei Frati Spagnoli, dell' Ordine di S. Francesco ... Crocefissi Nel Giappone L'Anno 1597 ... Ristampata in Perugia ... Stampata in Roma, Et in Perugia (1598). [*Laures 233 (138)*].

(20) Relacion Qve Don Francisco Tello ... embio de seys frayles españoles ... que crucificaron los del Iapon ... : ... En Seuila a treze de março de mill y quiniëtoy y nouëta y ocho anos ... [*Laures 234 (138a)*]. 佐久間正「キリシタン資料(1)——日本26聖人殉教に関する報告書(1)」、『スペイン図書』VI, 1962年も参照。

(21) 1599年にはバリでフランス訳も出ている。Relation Envoyee Par Don Francisque Tello ... Touchant le martire de six Religieux Espagnols ... A Paris ... M. D. XCIX. [*Laures 242*]. なお、テーリョは、殉教事件後日本へ使節を送り、サン・フェーベ号の積荷の返還および殉教者の遺骸の引き渡しを求めたフィリピン総督である。

(22) 6名の外国人フランシスコ会士に関しては、1599年マドリードでも報告書が刊行されている。Über die sechs Franziskaner vgl. auch: Dos Informaciones hechas en Iapon: vna de la hazienda que Taycosama ... mandò tomar ... y otra de la muerte de seis

Religiosos ... que el dicho Rey mandò crucificar en la ciudad de Nangasaqui. Madrid, en Mayo de 1599. [*Laures 241*].

(23) Relazione/Del Martirio/Che Sei Padri Scalci/di San Francesco./E 20. Giapponesi Christiani patirono nel Giappone./L' Anno MDXCVII./Scritta dal R. P. F. Gio. di S. Mara ... E dappoi tradotta dalla lingua Spa-/gnuola nella Italiana, Per ordine del R. P./F. Gioseppe di S. Maria ... In Napoli, Appresso Antonio Pace. MDC. [*Laures 246 (146)*].

(24) Relacion Del Martirio Qve seys Padres Descalços Franciscos, tres hermanos de la Compañia de Iesus, y decisiete Iapones Christianos padecieron en Iapon. Hecha por F. Iuan de Sancta Maria ... En Madrid ... 1601. [*Laures 248 (148)*].

(25) 註(9)参照。Siehe auch Anm. (9).

(26) Relacion/Svmaria De/Vida, Prision,/Y Glorioso Martirio/de los veinte y tres Martyres, que de la/magnifica Religion de nuestro Padre san/Franciscò sembraron las Indias del Iapon/con su sangre: los quales canonizo este pre/sente año de 1627 la cabeza de la Iglesia/de Christo nuestro Redemptor. Urbano Papa Octauo, de eterna y feliz/memoria Año 1627/Con Licencia/En Madrid, por la viuda de Alòso Martin. [*Laures 371 (244)*].

(27) Breve Compendio Del Martirio, è Morte Delli Ventitre Martiri dell'Ordine Minori di San Francesco ... della Prouincia di San Gregorio delle Filippine, e del Giappone ... In Milano ... 1627. [*Laures 373 (246)*].

(28) 本カタログ19参照。Siehe Kat. Nr. 19.

(29) Breve relatione della gloriosa morte di Paolo Michi, Giovanni Goto, e Giacomo Chisai ... Cauata da una lettera del P. Pietro Gomez Viceprovinciale al P. Generale della medesima Compagnia, l'anno 1597. In Milano, appresso Gio. Battista Bidelli, M. DC. XXVIII. [*Laures 331*].—Breve Raggraglio Del Glorioso Martirio Di trè Religiosi della Compagnia di Giesv, Paolo Michi, Giouanni Goto, Giacomo Quisai ... In Milano ... 1628. [*Laures 392 (261b)*].

(30) Fiestas/Qve Celebro La Noble/Villa De Vaena A La Canoniza/cion de los Gloriosos Martires del Iapon, S. Pedro/Bautista i sus 22 Companeros de la

Religion de/San Francisco: desde 26 de Febrero deste Año./Por don Gabriel Joseph d'Arriga natural de Granada, Secretario/del Señor Don Lvis Manuel Cordora i Figueróa. Año de 1628./Montilla. [*Laures* 387 (258)].

(31) 本カタログ4参照。Siehe Kat. Nr. 4.

(32) Svmaria Relación de los Protomartyres de la Iglesia del Iapon ... Sacada de las Historias del Iapon, escritas por los Padres de la Compañia de Iesus, Luys Froes, Gaspar de Espitilli, Luys de Guzman, Luis Piñero, António de Vasconcelos, Bartolome Ricio ... En Sevilla ... 1628. [*Laures* 385 (256)].

(33) 本カタログ2参照。Siehe Kat. Nr. 2.

(34) 1627年以前という可能性が考えられるのは、本カタログ1および77であろう。Es könnte die Möglichkeit bestehen, daß die beiden Werke Kat. Nr. 1 und 77 vor 1627 entstanden sein sollte.

(35) これについては、本カタログ5を参照。Vgl. hiezu Kat. Nr. 5.

(36) ヒロンの『日本王国記』にも「日本人たちは近くにこそ近づけなかったけれど、大勢の者がじっと見まもっていた……」(佐久間・会田訳, 第8章, 257-258頁)と記されている。Vgl. hiezu auch „Relacion del Reino de Nippon ...” (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 10).

(37) リバデネイラの報告記録にも「葡萄牙人はくるすが樹立される前に六名の宗教家を中央にして両側に十名づゝ日本人を配するように頼んだ」(原書, 532頁)とある。Vgl. hiezu auch „Historia de las Islas ...” (p. 532) von Marcello de Ribadeneyra (siehe Anm. 9).

(38) ジェロニモ・デ・ジェススの殉教記録にも「二人のバドレ・フランチェスコ・バシオ及びジョアン・ロドリゲスのみが十字架の近くへ来た」(佐久間訳, 第11章, 164頁)と記されている。Vgl. hiezu auch den Märtyrerbericht (Kap. 11) von Jerónimo de Jesús (siehe Anm. 12).

(39) ヒロンも『日本王国記』の中で「…すべての十字架がすっかり立てられたのを見とどけると、[検視役は]すでに手まわしよく袖をくくり上げてそこを歩いていたあの死刑執行人を幾人か呼んだので、その中の四人が聖者たちのところへ行った。そしてまず列の道路が一番近いところへ近づき、二人はガヨから始め、あとの二人は反対の側へ行き、聖人たちを槍でつきさし始めた。一人

一人に脇腹を二突きして、からだを串ぎしに突き通させるのだが、それは左脇から槍はいれば右肩へそれが突出るし、また右からはいった槍は左へ突き出るのでから、つまり一人一人の胸の内部で十字字ができることになった。」(佐久間・会田訳, 第8章, 261頁)と述べている。Vgl. hiezu auch „Relacion del Reino de Nippon ...” (Kap. 8) von Avilla Giron (siehe Anm. 10).

(40) フロイスは殉教者たちの服装に関しては「くるす上の主の着物は裸に近いまで取上げたが、彼等には肉体を覆う一枚だけを残した。」(新井訳, 第16章, 156頁)と記しているにすぎない。なお、ピアンキの版画では3イエズ会士の姿が、下部の銘から明らかのように、右側の最前部にまとめて配されているが、この点、フロイスの記述(第18章)とは異なる。フロイスの記す十字架の順列は東側から次の通りである。1) Francisco Adauto; 2) tagueja Cosme; 3) Suqui Jiro Pedro, Adauto; 4) Cosaqui Miquel; 5) Quisay Diego; 6) H. Miqui Pablo; 7) Ibaraqui Pablo; 8) H. Juan; 9) Luis; 10) Antonio; 11) Fr. Pedro Bautista Comisario; 12) Fr. Martín; 13) Fr. Felipe; 14) Fr. Gonzalo; 15) Fr. Francisco Blanco; 16) Fr. Francisco; 17) Matias; 18) Corasumar León; 19) Ventura; 20) Tomás; 21) Sacaquibara Joaquin; 22) Francisco; 23) Tomás; 24) Quimiya Juan; 25) Gabriel; 26) Funzuqui Pablo.

(41) Mâle, *Après Trente*, 118-119.

(42) T・インモース著・尾崎賢治編訳『変わらざる民族/演劇・東と西』, 南窓社, 1972年, 46-80頁(「スイスのバロック演劇にあられる日本のテーマ」), 81-88頁(「高山右近とハイドン—宝さがし奇譚」); トーマス・インモース「ドイツのバロック舞台における日本劇」, 『本の手帖』1963年12月号, 26-35頁; トーマス・インモース「豊後のティトス——ヨーロッパのバロック劇の大立物」, 『キリシタン文化研究会会報』第15年第3号(昭和47年12月), 234-243頁; Th. Immoos, *Japanese Themes in Swiss Baroque Drama, Studies in Japanese Culture*. Sophia University. Tokyo, 1963, 79-98; Idem, *Japanese themes in the European Baroque Drama, Transaction of the International Conference of Orientalists in Japan*, No. VIII, 1963, (The Tōhō Gakkai), 26-33; Idem, *A Treasure Hunter's Adventure, KBS (Kokusai Bunka Shinko-kai) Bulletin On Japanese Culture*, June/July 1969, 96, 10-13.

(43) J. Müller (*Das Jesuitendrama in den Ländern*

deutscher Zunge vom Anfang (1555) bis zum Hochbarock (1665), Augsburg 1930, II, 111 ff.) も、17世紀に日本の殉教者劇が少なくとも42回、1700-67年に25回ヨーロッパで上演されたことを指摘している。J. Müller hat darauf hingewiesen, daß Dramen mit dem Thema der japanischen Märtyrer mindestens 42 mal im 17. Jahrhundert und 25 mal zwischen 1700 und 1767 in Europa gespielt wurden.

(44) Pigler, *Barockthemen*, Bd. I, 434.

(45) Réau, *Iconographie III*, 921.

(45) パチェコ「エスパニアの日本殉教者像」; パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」。Die beiden Artikel von D. Pacheco erschienen 1963 auf Japanisch.

(46) ただし17世紀に刊行された次の2書には扇絵・挿図はない。Folgende zwei Bücher, die im 17. Jahrhundert veröffentlicht wurden, haben weder Titelbild noch Illustration. Vita E Martirio De'Beati Paolo Michi, Gio. Soan, e Jacopo Ghisai della Compagnia di Gesù, martirizzati nel Giappone ... Da Un Sacerdote della medesima Compagnia. In Venezia MDCCXXIV. [*Laures 589 (401a)*].— Vita E Martirio De'Santi Giapponesi Paolo Michi, Gio. Soan di Goto, e Jacopo Ghisai della Compagnia di Gesù, martirizzati nel Giappone ... In Ferrara ... 1725. (Pietro Bresciani, S. J.). [*Laures 590 (402)*].

(47) ヒロンの『日本王国記』によれば「宣告文を書いた掲示板は、空ざまにさし立てられ、一人の日本人の両手に掲げられて、検視役の前にあった…」(佐久間・会田訳, 第8章, 261頁)という。殉教者の血を受ける目撃者に関しては、ヒロンは「ホルトガル人たちと、いく人かの日本人とは散々に棒でたたかれたかわりに、死刑執行者との間にたち混って、この血潮の流れを手を受けた」(同, 262頁)と記している。Hiezu vgl. auch „Relación del Reino de Nippon ...” (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 10).

(48) 1597年2月22日付長崎発のローマ教皇宛書翰で日本司教ペドロ・マルティネスは「…私は群衆の前でそれに立ち合うことが許されませんでしたので、十字架の場所から少しばかり離れた或る家の窓からこの光景を眺めておりました。…」(チースリク訳, 118頁)と書き、また、ジェロモノ・デ・ジェススの殉教録にも「彼等が十字架へ到着するとこの状景を、司教と彼の宗教判事及

びその他のジェスス会のバードレ達は自分の教館及び天主堂から見ていた。」(佐久間訳, 第11章, 163頁)と記されているが、しかし、ヒロンの『日本王国記』(第8章)によれば、司教は諸聖人天主堂にあって殉教が終わったことを知らなかったという。Hiezu vgl. auch den Bericht (Kap. 11) von Jerónimo de Jesús (siehe Anm. 12) und „Historia de las Islas ...” (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 9).

(49) それらについては *Laures*: 741 (512), 743 (513), 744 (514), 745 (516), 746 (517), 747 (518), 748 (519), 749 (520), 750 (521), 751 (522), 752 (523), 753 (523a), 754 (523b), 755 (523c), 756 (523d), 757 (524), 758 を参照。

(50) 『カトリック新聞』1975年2月2日, 挿図。

謝辞 Danksagung

<西洋美術における日本の殉教者>という研究テーマへ筆者を導いて下さったのは、ウィーン大学の Alexander Slawik 先生 (日本学) である。ここに心からなる感謝を捧げたい。

本稿を草するに当り、御教示頂いた方々、とりわけ、Diego Pacheco 師 (長崎・26聖人記念館), Hubert Cieslik 師 (上智大学), Thomas Immoos 師 (上智大学), 片岡弥吉氏 (長崎・純心女子短期大学), 菅野陽氏, 坂本満氏 (お茶の水女子大学), 福永重樹氏 (サントリー美術館), また、図版の入手に関して御協力下された方々、特に、Erich und Hertha Nürnberger (オーストリア・トラウンキルヘン), Jaime Coelho 師 (上智大学), 酒井善孝氏 (上智大学), 神吉敬三氏 (上智大学), 北村芳郎氏 (大阪・南蛮文化館), 富沢孝彦師 (カトリック札幌司教館), 谷津良勝師 (札幌・フランシスコ修道院), 下山正義師 (東京・本所教会), 高草茂氏 (岩波書店), 田中千禾夫氏 (桐朋学園大学), 並びに, Museo Provincial de Bellas Artes / Sevilla, Kunsthistorisches Institut der Universität Wien, 上智大学吉利支丹文庫, 上智大学聖三木図書館, 長崎・日本26聖人記念館, 長崎県立図書館, 天理大学付属天理図書館, 国立国会図書館, 東洋文庫, 東京大学付属図書館, カトリック新聞社に衷心より謝意を表する次第である。

Resümee:

DIE 26 MÄRTYRER VON JAPAN IN DER KUNST: EIN WERKKATALOG

Koichi KOSHI

Die Geschichte des Christentums in Japan beginnt mit dem Zeitpunkt, da Franz Xaver aus der Gesellschaft Jesu am 15. August 1549 in Kagoshima (SüdJapan) an Land ging. Seitdem dauert das sogenannte christliche Jahrhundert⁽¹⁾ bis zur Abschließung des Landes gegen die Außenwelt im Jahre 1639, die es fast 250 Jahre unmöglich machte, daß ein christlicher Missionar japanischen Boden betritt. In der ersten Hälfte beschäftigten sich die Jesuitenmissionare, die faktisch unter portugiesischem Patronat standen, mit der Ausbreitung des Christentums von der Insel Kyushu (SüdJapan) bis zu den Gegenden um Kyoto, die damalige Hauptstadt des Landes. Im Jahre 1584 traten auch die Franziskaner, die unter dem Patronat des spanischen Königs standen, in die Japanmission ein, jedoch wurde schon im folgenden Jahr auf Ersuchen des Visitators der Gesellschaft Jesu, Alexander Valignano, das Breve, in dem die Missionierung Japans auf diesen Orden beschränkt wurde, von Papst Gregor XIII. verkündigt. Zwei Jahre später, 1587, erteilte Hideyoshi Toyotomi, der damals die höchste Macht des Landes in Händen hatte, das Verfolgungsedikt, durch das die Jesuiten auch nicht mehr öffentlich Mission betreiben konnten.

1593 kam der Guardian des Franziskanerklosters St. Georg zu Manila, Pedro Baptista, als das Haupt der zweiten Gesandtschaft, die der Statthalter der spanischen Philippinen an Hideyoshi schickte, nach Japan. Pedro Baptista und seine Mitarbeiter begannen bald nach der offiziellen Audienz bei Hideyoshi eine überaus rührige Missionstätigkeit bei den armen Einwohnern zuerst in Kyoto, und dann auch in Osaka, Sakai und Nagasaki. Darüber machten sich freilich die Jesuiten große Sorge, im September 1596 befahl der Bischof von Japan, Pedro Martinez, ein portugiesischer Jesuit, die Ausweisung der Franziskaner. Im Oktober desselben Jahres wurde in der Nähe von Urado in der Provinz Tosa (Insel Shikoku) ein großer spanischer

Dreimaster „San Felipe“ gesichtet, dessen Pilot, zornig auf die Beschlagnahme der Schiffsladung, den berühmten Ausspruch getan haben soll, die Missionare seien die Wegbereiter für die Soldaten des spanischen Königs. Im Dezember 1596 wurde dann von Hideyoshi, den jener Kraftausdruck zum Zorn reizte, unter dem Vorwand des Verfolgungsedikts von 1587 der Befehl erteilt, die Häuser der Missionare in Kyoto und Osaka zu bewachen und ein Namenverzeichnis der Christen anzufertigen. Folglich wurden in der Tat sechs ausländische Franziskanermisionare, darunter auch der Kommissär Pedro Baptista, und 18 japanische Christen verhaftet. Am 3. Jänner des folgenden Jahres wurden in Kyoto diesen 24 Auserwählten zum Zeichen der Schmach die linken Ohrläppchen abgeschnitten, die Gefangenen wurden auf die Ochsenkarren gesetzt und durch die Straßen der Hauptstadt, am nächsten Tag auch von Fushimi und Osaka, gefahren. Am 9. Jänner führte man dann die Verurteilten aus der Stadt Sakai auf die lange Reise nach Nagasaki (SüdJapan), wo das Christentum die meisten Anhänger zählte⁽⁴⁾. Während der Reise traten noch zwei christliche Laien der Schar der 24 Gefangenen bei, so daß sich die Zahl schließlich auf 26 belief. Am Morgen des 5. Februars kamen die 26 in der Hafenstadt Nagasaki an, und an demselben Tag vergossen die Glaubenshelden auf dem Hügel von Nishizaka ihr Blut am Kreuze. Sechs ausländische Missionare, je drei Patres und Fratres, gehörten dem Franziskanerorden an, drei von den 20 Japanern waren Jesuiten, und die übrigen 14 christliche Laien, die entweder Franziskanerterziaren oder nächste Mitarbeiter dieses Ordens waren⁽⁶⁾.

Dieses furchtbare Ereignis des ersten großen Martyriums in Japan wurde in der Hauptsache von vielen Ausländern, die sich damals in Nagasaki, dem Ort des Martyriums, aufhielten, wie z. B. Luis Frois⁽⁸⁾ aus der Gesellschaft Jesu, Marcello de Ribadeneira⁽⁹⁾ aus

dem Franziskanerorden, von dem spanischen Kaufmann Bernardino de Avila Giron⁽¹⁰⁾, Juan Pobre de Zamora⁽¹¹⁾ aus dem Franziskanerorden und von Bischof Pedro Martínez aus der Gesellschaft Jesu, sowie von dem Franziskaner Jerónimo de Jesús⁽¹³⁾, der zu der Zeit des Martyriums in Japan war, in Briefen und Berichten dokumentiert⁽¹⁴⁾. Davon gehört der Märtyrerbericht (Archivum Romanum Societatis Iesu, Jap. Sin. 53 ff. 1–77) des unvergleichlichen Japan-Kenners Luis Frois, den er am 15. März 1597 in Nagasaki unterzeichnete, zu den umfangreichsten und wertvollsten Schriftstücken über die Verfolgung und das Martyrium. Der Bericht dieses Jesuitenpaters, der zwar erst 1935 von R. Galdos S. J. veröffentlicht wurde, wurde aber, wenn auch in verkürzter Form, schon 1599 in Rom⁽¹⁵⁾, Mailand⁽¹⁶⁾ und Mainz⁽¹⁷⁾, ferner 1628 in Mailand⁽¹⁸⁾, in verschiedenen Sprachen gedruckt. Zu den frühesten Drucklegungen über den Märtyrertod vom Jahre 1597 gehört aber der 1598 in Rom/Perugia⁽¹⁹⁾ und Sevilla⁽²⁰⁾ erschienene Bericht⁽²¹⁾ des Gouverneurs auf den Philippinen Francisco Tello über das Martyrium der sechs Franziskaner⁽²²⁾. 1600 und 1601 wurde dann in Neapel⁽²³⁾ und Madrid⁽²⁴⁾ das Buch des Franziskaners Iuan de Sancta Maria über das Martyrium der sechs Franziskaner, der drei Jesuiten und der 17 japanischen Christen publiziert⁽²⁵⁾.

Im Jahre 1627, als die sechs Missionare des Franziskanerordens und die 17 japanischen Laien, die mit diesem Orden zu tun hatten, von Papst Urban VIII. seliggesprochen wurden, wurde das Verlagswerk über die japanischen Märtyrer wieder aktiv: in Madrid⁽²⁶⁾ und Mailand⁽²⁷⁾ erschienen die beiden Berichte über diese 23 Seliggesprochenen. Im folgenden Jahr wurden, gleichsam in Erwiderung darauf, von Seiten der Jesuiten, drei Arten von Berichten über den Märtyrertod der drei Jesuiten, die ihrerseits erst 1629 ebenfalls seliggesprochen wurden, in Modena⁽²⁸⁾ und Mailand⁽²⁹⁾ publiziert. Außerdem erschienen

im gleichen Jahr, 1628, in Mailand⁽³¹⁾, Sevilla⁽³²⁾ und Douai⁽³³⁾ Berichte über das Martyrium der 26, ferner in Montilla⁽³⁰⁾ ein solcher über die 23 Märtyrer.

Von diesen zahlreichen, genannten Publikationen über das große Martyrium von Nagasaki im Jahre 1597 sind nun aber nur drei Bücher, die 1628 in Mailand, Modena und Douai erschienen, mit einem Titelbild versehen: Kat. Nr. 4, 19 und 2. Diese drei Titelbilder mit der Szene der Kreuzigung der japanischen Märtyrer (eines davon, Kat. Nr. 2, trägt sogar das Datum vom Jahre 1627) gehören zu den frühesten fest datierten Beispielen der Darstellung des Martyriums vom Jahre 1597, die uns erhalten sind⁽³⁴⁾.

Die Radierung von Jacques Callot (Kat. Nr. 3), die für die Franziskaner von Nancy geschaffen wurde und daher die Kreuzigung bloß der 23 von den 26 Märtyrern darstellt, kann auch zu den frühesten Beispielen gezählt werden, sie dürfte anlässlich der Beatifikation vom Jahre 1627 entstanden sein, weil die Märtyrer hier mit Nimbus dargestellt sind. Für diese Radierung, die zweifellos eines der künstlerisch hervorragendsten Beispiele von den zahlreich vorhandenen Darstellungen des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 ist und sich damals verbreitet haben dürfte, ist es charakteristisch, daß die 23 Kreuze nicht quer in einer Reihe, wie in anderen Beispielen (Kat. Nr. 8, 12, 38, 39, 44 usw.), sondern perspektivisch in zwei Reihen aufgestellt sind. Eine ähnliche Aufstellung der Kreuze findet sich auch in dem Titelkupfer (Kat. Nr. 4), das Giovanni Pietro Bianchi für die mailändische Ausgabe des Märtyrerberichtes von Luis Frois schuf, und in dem Ölgemälde (Kat. Nr. 5) von Tanzio da Varallo (gest. 1635). Das letztere von diesen beiden oberitalienischen Werken, das in der Mitte der beiden Reihen von Kreuzen das Haupt der Erstlingsmartyrer, den Franziskaner Pedro Baptista, zeigt, ist besonders eng mit der Radierung von Callot verwandt, was uns mit

É. Mâle einen Einfluß von ihm vermuten läßt⁽³⁵⁾.

Das Martyriumsbild von Callot stimmt zwar nicht immer mit den Schilderungen der Berichterstatter, die sich zur Zeit des Martyriums in Nagasaki aufhielten, überein, aber man könnte sagen, daß es gerade darum einen künstlerischen Reiz hat. Nach dem Märtyrerbericht (Kap. 16) von Luis Frois z. B. sollen nämlich viele Soldaten, mit Lanzen bewaffnet, den Richtplatz rundum abgesperrt haben, und außer den beiden Jesuitenpatres, João Rodrigues und Francisco Pasio, soll jedem das Betreten des Richtplatzes verboten gewesen sein⁽³⁶⁾; Die 26 Kreuze sollen in je drei oder vier Schritten Abstand in einer Reihe, und zwar in deren Mitte die sechs Kreuze für die ausländischen Franziskaner, aufgestellt worden sein⁽³⁷⁾. Im Vergleich mit der Radierung Callots stellt das Titelkupfer Bianchis, in dem, wie die Inschrift unten am Rande zeigt, die Kreuze für die sechs Franziskanermissionare in der Mitte aufgestellt sind und die beiden Jesuiten, die die Märtyrer ermutigten, zu sehen sind, den historischen Tatsachen getreuer die Kreuzigungsszene dar, weil dieses eben für den Märtyrerbericht von Frois gemacht wurde. Das Titelbild stimmt ferner in der Art der Hinrichtung mit der Beschreibung von Frois überein, daß sich vier mit Lanzen bewaffnete Schergen zu je zweit vor ein Kreuz stellten, indem sie ihre Lanzen vor der Brust des Opfers kreuzten⁽³⁹⁾. In dem für das Buch des Jesuiten Frois bestimmten Bild von Bianchi sind jedoch interessanterweise die Märtyrer nicht zu finden, die sich mit dem Kostüm des Franziskanerordens, wie in der Radierung von Callot, bekleiden.

Es war schon von der Rivalität der Gesellschaft Jesu mit dem Franziskanerorden in der Missionszeit in Japan die Rede. Diese zeigt sich ebenso in dem Fall der Druckschriften über das Martyrium von Nagasaki im Jahre 1597, was wir schon gesehen haben. Wie schon É. Mâle in seinem Buch *L'art*

religieux après le concile de Trente (1932)⁽⁴¹⁾, wo allerdings nur acht Beispiele der Darstellung des japanischen Martyriums im Jahre 1597 angeführt sind, hingewiesen hat, ist dieses Gegenüberstehen der beiden Orden tatsächlich auch in der Kunst zu beobachten. Bis zur Heiligsprechung von allen 26 Märtyrern im Jahre 1862 sind sie nämlich ausnahmsweise vollzählig zusammen dargestellt worden. Die Ausnahmen vor der Kanonisation bilden: das schon erwähnte Titelbild (1628) von Bianchi (Kat. Nr. 4), eine Kupferstichillustration zu dem 1634 in Antwerpen erschienenen Buch von Petro Biverius (Kat. Nr. 6) und das Fresko, wahrscheinlich aus der ersten Hälfte des 17. Jahrhunderts, in der Kathedrale von Cuernavaca in Mexiko (Kat. Nr. 8).

In Japan kam im 17. Jahrhundert die grauenhafte Verfolgung der Christen unter den drei Shogunen (Herrscher) aus dem Hause Tokugawa. Die Tragödien der japanischen Märtyrer wurden eine nach der anderen dem Abendlande berichtet und erweckten eine starke Rührung der Katholiken. Die heldenhaften Taten der japanischen Christen, die sich der greulichen Verfolgung gegenüber sahen, stellen die Verkörperung jenes christlichen Paradoxons „Victor quia victima“ dar und fesselten daher die Christen der Barockzeit mit exotischen Reizen. Man könnte vielleicht ruhig sagen, daß Japan durch das Märtyrertum doch den Europäern näher bekannt wurde. Es ist schon von J. Müller⁽⁴³⁾ und in letzter Zeit auch von Th. Immoos⁽⁴²⁾ hingewiesen worden, daß das Thema Japan im Barocktheater, besonders im Theater der Jesuiten, die mit Vorliebe die Märtyrer ihrer Missionsländer auf die Bühne brachten, eine nicht geringere Rolle spilete. Nach den Studien von Th. Immoos wurden Dramen, die Japan, vor allem japanische Märtyrer, wie z. B. „Christianomachia Japonensis“, „Protasius Rex Arimae“, „Justus Ucondonus“ und „Sieben japanische Märtyrer“, zum

Thema haben, zwischen 1605 und 1836 in ganz Europa 164 mal gespielt. Was die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 betrifft, haben wir auch Dokumente, daß 1628 in Duinkerken (Nordfrankreich) und 1630 in Tournai Dramen über das Martyrium der drei Jesuiten—„Het Christen-Saet van Japonien oft de Martelie van Paulus Michi, Johannes de Goto, ende Didacus Guizai, Japonosisen” und „Martyrium trium e Societate Japonensium”—gespillet wurden.

Nicht nur in der Publikation des 17. Jahrhunderts und im Barocktheater, sondern auch in der Kunst des Barocks wurde das Thema Japan, vor allem das von den japanischen Märtyrern, oft aufgenommen. In Italien wurden, wie schon É. Mâle, A. Pigler (*Barockthemen*, 1956/1974) und L. Réau (*Iconographie de l'art chrétien*, III, 1958) aufmerksam gemacht haben, das Martyrium der 23 von Camillo Rama (gest. nach 1622, Kat. Nr. 1), Tanzio da Varallo (gest. 1635, Kat. Nr. 5) und Francesco Maffei (gest. 1660, Kat. Nr. 53) dargestellt, während Giovanni Lanfranco (gest. 1647, Kat. Nr. 20), Cavaliere d'Arpino (gest. 1640, Kat. Nr. 21), Cagnacci (gest. 1681, Kat. Nr. 24 und 25) und Lorenzo Pasinelli (gest. 1700, Kat. Nr. 26) die Kreuzigung der drei Jesuiten malten.

Die Beispiele in Spanien und in seiner Kolonie Peru sind teilweise schon von D. Pacheco⁽⁴⁵⁾ bekannt gemacht. In Spanien wurden vor allem viele Holzstatuen der drei Jesuitenmartyrer geschnitzt, von denen die von Francisco Díaz del Rivero (um 1630, Kat. Nr. 58), Alonso de Saavedra (1670, Kat. Nr. 59), Marcelino Roldán (1732, 82) und Pedro Duque Cornejo (gest. 1757, Kat. Nr. 83), sowie die Juan de Mesa (gest. 1627) zugeschriebenen schönen Statuen aus Holz (Kat. Nr. 81) besonders bemerkenswert sind. Auch in Peru wurden schon 1630 zwei Gemälde (Kat. Nr. 9 und 10), die die 23 Märtyrer darstellen, von einem Maler namens Lázaro Pardo de Lagos gemalt. In Peru gibt

es vor allem in Lima viele Beispiele. Z. B. finden sich unter den insgesamt 40 Märtyrern des Franziskanerordens, die im Kreuzgang des Franziskanerklosters, je einer auf jedem Pfeiler in Kachelnbildern (Sevillianer Kacheln aus der ersten Hälfte des 17. Jahrhunderts) zu sehen sind, die 23 Märtyrer von Nagasaki (Kat. Nr. 11) den historischen Tatsachen getreu dargestellt: die Hände und Füße der Märtyrer z. B. sind hier mit eisernen Fesseln ans Kreuz geheftet, wie Frois uns berichtet (Kap. 16).

Von den Titelbildern der während des 17. Jahrhunderts erschienenen Büchern über die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 (Kat. Nr. 22, 29 usw.) sei hier, außer den bereits erwähnten Beispielen (Kat. Nr. 2 und 4), nur eines erwähnt: das Titelkupfer zu dem 1674 in München publizierte Büchlein über die drei Jesuitenmartyrer (Kat. Nr. 28). Dieses Titelbild ist nichts anders als eine Kopie nach dem Kupferstich von Schelte Adams Bolswert (gest. 1659, Kat. Nr. 27), das sich damals verbreitet haben dürfte. Das Werk dieses flandrischen Kupferstechers kann neben dem von Callot (Kat. Nr. 3) ohne Zweifel zu den besten graphischen Werken gezählt werden, die die japanischen Märtyrer darstellen.

Im 18. Jahrhundert machte man nicht so viele Kunstwerke wie im 17. Jahrhundert, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 zum Gegenstand haben. Als Beispiele hierfür seien hier nur das Gemälde mit der Szene des Martyriums von den drei Jesuiten (Kat. Nr. 31), das von H. Voss als Frühwerk von François Boucher anerkannt wurde, und dessen Kupferstichkopie von Laurent Cars (gest. 1771, Kat. Nr. 32), sowie das Titelbild (Kat. Nr. 13) und die Illustration (Kat. Nr. 14) zu dem dritten Band der 1744 in Manila veröffentlichten Chronik des Franziskanerordens angeführt. Diese beiden graphischen Werke, die die Kreuzigung der 23 Märtyrer wiedergeben, können zu den Beispielen gezählt werden, die die Szene des Martyriums

vom Jahre 1597 am ausführlichsten darzustellen versuchen. Wie Frois schildert, sind hier die Augenzeugen des Martyriums zu sehen, die nicht vor dem Schlag der Schergen zurückweichen und die Tücher in das Blut der Märtyrer, das in Strömen floß, tauchen; in der Mitte des Richtplatzes ist das Schild zu finden, auf dem das Verurteilungsdekret geschrieben stand⁽⁴⁷⁾. Urigens ist in den beiden Werken rechts unten der Bischof von Japan, Pedro Martinez, dargestellt, der nach seinem Brief vom 22. Februar 1597 von dem Fenster eines Hauses die Martyriumsszene gesehen haben soll.

Im Jahre 1862 erfolgte am Pfingstfest die feierliche Heiligsprechung aller 26 Märtyrer in St. Peter zu Rom: sie wurden zum ersten Mal in der Geschichte des japanischen Christentums von Papst Pius IX. kanonisiert. Anlässlich dieser Heiligsprechung wurde die Publikation der Bücher über diese japanischen Heiligen wieder aktiv, allein im Jahre 1862 wurden in Rom, Breda, Paris, Lille, Luzern, Madrid, Valencia, Mainz, Toulouse, Dublin usw. mehr als 17 Arten Bücher über alle 26 oder über die 23 oder die drei Jesuiten oder über Pedro Baptista veröffentlicht⁽⁴⁹⁾, von denen mindestens sieben mit einem Titelbild versehen sind: Kat. Nr. 15, 66, 67, 37/38, 39, 40 und 41. Von den Titelbildern dieser Bücher sind das Titelpupfer zu dem in Breda erschienenen Buch von N. A. A. Aussems (Kat. Nr. 39) und der Holzstich von dem Pariser reproduzierenden Holzschneider Auguste Pontenier (Kat. Nr. 40) zu dem Buch von D. Bouix in der Hinsicht interessant, daß eines von diesen Titelbildern, die die Kreuzigung der 26 Märtyrer darstellen, in Japan von einem japanischen Kupferstecher namens Aritoshi Ishida in einem Titelbild (Kat. Nr. 42) zu dem 1887 in Osaka publizierten Buch über das Martyrium der 26 Heiligen kopiert wurde.

Im 19. Jahrhundert wurden die 26 Märtyrer, wenn sie auch kanonisiert wurden, zum

Unterschied von dem 17. Jahrhundert nicht mehr von dem mehr oder weniger großen maler der Zeit gemalt, und in diesem Jahrhundert hat das Thema der 26 Japanischen Heiligen Märtyrer zwar japanische (Kat. Nr. 91, 47/48/93, 50/51/94, 92 und 95), jedoch nicht so sehr ausländische Künstler interessiert.

Die vorliegende Arbeit hat sich zur Hauptaufgabe gemacht, Kunstwerke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 zum Thema haben, zu katalogisieren, wobei allerdings Werke, die einzeln jeden Märtyrer wiedergeben, ausgenommen sind.

- I. 1597年の長崎における殉教場面を表わす作品
 - i. フランシスコ会関係23人（フランシスコ会士6名および日本人平信徒17名）の磔刑図、および、列聖式（1862年）以前の26人全員の磔刑図
 - ii. 3イエズス会士の磔刑図
 - iii. 列聖式（1862年）以後の26聖人全員の磔刑図
 - iv. 殉教場面を表わすその他の作品
- II. 1597年の長崎における殉教者を表わす作品
 - v. 十字架を持つ3イエズス会士
 - vi. 3イエズス会士を表わすその他の作品
 - vii. フランシスコ会士6人、フランシスコ会関係23人、および、26聖人全員を表わす作品

- I. Werke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen
 - i. Die Kreuzigung der 23 Märtyrer (sechs Franziskaner und 17 japanische Laien), und Beispiele der Kreuzigung von allen 26 Märtyrern, die vor der Kanonisation (1862) entstanden
 - ii. Die Kreuzigung der drei Jesuiten
 - iii. Die Kreuzigung von allen 26 Heiligen (Beispiele nach der Kanonisation im Jahre 1862)
 - iv. Andere Beispiele der Martyriumszene
- II. Werke, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen
 - v. Die drei Jesuiten, die das Kreuz halten
 - vi. Andere Werke, die die drei Jesuiten darstellen
 - vii. Werke, die die sechs Franziskaner, die 23 Märtyrer, und alle 26 Heilige darstellen

文献略号 Abgekürzt zitierte Literatur

Frois—Galdos, *Relación del Martirio = Relación del Martirio de los 26 cristianos crucificados en Nangasaku el 5 Febrero de 1597*. P. Luis Frois S. J. Autor. P. Romualdo Galdos S. J. Editor. Roma 1935.
 Mâle, *Après Trente = É. Mâle, L'art religieux de la fin du XVI^e siècle, du XVII^e siècle et du XVIII^e siècle. Étude sur l'iconographie après le concile de Trente. Italie—France—Espagne—Flandres*, Paris 1951 (Deuxième édition).
 Laures = J. Laures, *Kirishitan Bunko. A Manuel of Books and Documents on the early christian Mission in Japan with special reference to the principal Libraries in Japan and more particularly to the collection at Sophia University, Tōkyō*, third, revised and enlarged, Edition, Tōkyō 1957.
 Pigler, *Barockthemen = A. Pigler, Barockthemen.*

Eine Auswahl von Verzeichnissen zur Ikonographie des 17. und 18. Jahrhunderts, 2. erweiterte Auflage, Budapest 1974, Bd. I–II, Tafelband.
 Réau, *Iconographie III = L. Réau, Iconographie de l'art chrétien*, Tom 3, Paris 1958.
 Thieme-Becker = *Allgemeines Lexikon der bildenden Künstler von der Antike bis zur Gegenwart*, hrg. von U. Thieme und F. Becker (und von H. Vollmer), Bd. I–XXXVII, Leipzig 1907–1950.
 『日本二十六聖人・長崎』= 『日本二十六聖人・長崎』, 二十六聖人資料館, 1962年.
 バチェコ「エスパニアの日本殉教者像」= Diego Pacheco「エスパニアの日本殉教者像」, 『キリシタン研究』第8輯, 吉川弘文館, 1963年, 202–205頁.
 バチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」= ディエゴ・バチェコ(岩谷十二郎訳)「リマ(ペルー)植民時代の美術に現われた日本の殉教者」, 『キリシタン研究』第8輯, 吉川弘文館, 1963年, 179–184頁.

I. 1597年の長崎における殉教場面を表わす作品
Werke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen

i. フランシスコ会関係23人の磔刑図、および、
列聖式(1862年)以前の26人全員の磔刑図

**Die Kreuzigung der 23 Märtyrer und Beispiele
der Kreuzigung von allen 26 Märtyrern, die vor
der Kanonisation (1862) entstanden**

1

カミロ・ラーマ (ブレッシャの画家, 1622年以後歿)

Camillo Rama (Maler von Brescia, gest. nach 1622;
Thieme-Becker, XXVII, 584)

ブレッシャ, サン・ジュゼッペ聖堂: 油彩画
Brescia, Chiesa di S. Giuseppe: Ölgemälde

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

文献 Lit.: G. B. Carboni, *Le pitture e sculture di
Brescia*, 1760, 21; *Cat. della Mostra della pittura a
Brescia nel 600 e 700*, Brescia 1935, 63; *Thieme-
Becker*, XXVII (1933), 584; *Pigler, Barockthemen*,
Bd. I, 434

2

ドゥエ (フランス)・1628年刊『フランシスコ会23殉教
者および3イエズス会士の生涯と死』の銅版扉絵(1627
年の年記)

Titelkupfer (datiert: 1627) zu: *La vie et la mort
de vingt-trois martyrs de l'ordre de Saint-François
et de trois jésuites, tous crucifex et transpercez de
lance au Japon. Ensemble les prodiges et miracles
arrivés devant et après leur martyr reconnu par
N.S.P. Urban VIII, en Juillet de l'an | 628 ... Douai,
imp. de Pierre Auroy, 1628*

フランシスコ会関係23人(?)の磔刑
Die Kreuzigung der 23 (?) Märtyrer

この銅版扉絵とジャック・カロの銅版画(本カタログ
3参照)との関連は, J. リウールにより指摘されている。
J. Lieure hat auf die Beziehung dieses Titelkupfers
zu der Radierung von Jaques Callot (siehe Kat. Nr.
3) hingewiesen.

文献 Lit.: J. Lieure, *Jacques Callot*, Paris 1927, I,
100, note 2

3

ジャック・カロ

Jacques Callot (Nancy 1592—1635 Nancy; Thieme-
Becker, V, 406—408)

エッチング (16.7×11.3 cm), 1627年以後

Radierung (16.7×11.3 cm), nach 1627

第1ステート I. Zustand

左下に署名 Signiert links unten: Callot fec.

下部余白に銘 Inschrift unten am Rande: *Le Pour-
raict des premier 23 Martire mis en Croix par la
predicaon. de la S. foy au Giappon / sous l'Empe
Taicosam en la Cité de Mongasachi, de lordre des
freres mineurs Observantin de S. Francois.*

国立西洋美術館蔵 (G・1971-5; 昭和45年度購入作品)

Tokyo, Nationalmuseum für Westliche Kunst (Inv.
Nr. G・1971-5)

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

このエッチングは, ロレーヌ (ナンシー) のフランシス
コ会のために制作されたもの (この修道会とカロとの関
係については, E. Martin, *J. Callot et l'ordre de
Saint François, Semaine religieuse du diocèse de
Nancy*, 1929 を参照) で, É. マールのいうように1627
年の列福式後間もない頃の作品と考えられる。J. リウ
ールは1628年の初め, Th. シュレーダーは1629年頃の制
作としている。レニングラード (エルミタージュ美術
館) には, このエッチングのための部分習作のデッサン
が4点残っている (D. Ternois, *Catalogue des dessins
de Jacques Callot*, Paris 1962, 1102—1105; Th.
Schröder, *Jacques Callot*, München 1971, Bd. 1, 651
を参照)。本図と関連する諸作例 (本カタログ 2, 4, 5)
については本文18-19頁を参照。なお, 本図は後に, アン
トニオ・フランシスコ・カルディム著『日本殉教精華』
(ローマ・1646年刊, 本カタログ22)の挿図としても使
われたらしい (これについては J. Lieure, *Jacques
Callot*, Paris 1927, V, 89 参照)。

Diese Radierung, die J. Callot für die Franziskaner
von Lorraine schuf, scheint bald nach der Beatifika-
tion der 23 japanischen Märtyrer (1627) entstanden
zu sein, wie É. Mâle meint. J. Lieure datiert dieses
Werk um den Anfang des Jahres 1628, Th. Schröder
um 1629.—In Leningrad (Eermitage) gibt es vier
Vorzeichnungen dazu (Ternois 1102—1105).—Später
scheint diese Radierung Callots auch als Illustration
zu *Fasciculus e iaponicis floribus...* von Antonio
Francisco Cardim (Rom 1646, siehe auch Kat. Nr.
22) verwendet worden zu sein (vgl. darüber J. Lieure,
V, 89).—Siehe auch den Text S. 29-30.

文献 Lit.: É. Meaume, *Recherches sur la vie et les ouvrages de Jacques Callot*, Nancy 1853, No. 155; J. Lieure, *Jacques Callot, Catalog of the Graphic Works*, New York 1969 (Reprint: Paris 1927), Vol. V, 88-89 (No. 594), Vol. I, 100; *Mâle, Après Trente*, 118-119, Fig. 63; *Réau, Iconographie III*, 921; D.

Ternois, *L'art de Jacques Callot*, Paris 1962, p. 176, pl. 60b; Th. Schröder, *Jacques Callot. Das gesamte Werk*, Münden 1971, Bd. 1, 627-628, Bd. 2, 1481; 『国立西洋美術館年報』No. 5/1971, 58-59 (新収作品目録), 挿図



Le Pourtrait des premier 23 Martire mis en Croix par la prediccion de las. Loy au Japon sous l'Empere. Taicosam en la Cite de Mongasachi, de l'ordre des freres mineurs Observantim de S. Francois.

ジョヴァンニ・ビエトロ・ピアンキ (1625年頃ミラノで活躍した銅版画家)

Giovanni Pietro Bianchi (Kupferstecher, tätig in Mailand um 1625; Thieme-Becker, III, 583)

ルイス・フロイス 著『26殉教者録』(ミラノ・1628年刊)の銅版扉絵(12×9 cm)

Titelkupfer (12×9 cm) zu: Relatione/Della gloriosa morte/Di XXVI. Posti In Croce/Per commandamento del Rè di Giappone, alli 5. di Febraio/1597., de quali sei furno (sic!) Religiosi di San Francesco, tre della Compagnia di Giesù, e diecisette Christiani secolari Giapponesi, posti nel numero/de SS. Martiri da N. S. Papa Urb. VIII./alli 15. di Settembre l'anno 1627./Mandata dal Padre Luigi Frois alli 15 di Marzo l'istesso/anno 1597. al R. P. Claudio Aquauia Generale/di detta Compagnia./Tradotta in Italiano dal P. Gasparo Spitilli/di Campli della medesima Compagnia./In Milano./Per Gio: Battista Bidelli. M. DC. XXVIII. [*Laures 386 (257)*].

下部余白右に署名 Signiert rechts unten am Rande: G. P. Bianchi F. in Mil.

下部余白の銘 Inschrift unten am Rande: Vintisei Santi Martiri posti in Croce nel Giappone a 5 di Febraro l'anno 1597/A. Li 6. Frati Franciscani Scalzi, B. i tre Religiosi della Comp^a. di Giesù Giapponesi/Compagni di 120 della medesima Compagnia di Varie nationi che stauano in quel/tempo Sparsi nel Giappone; nel quale Regno i detti Padri prima di tutti, e longo tempo soli hanno piantato la nostra. S^a. Fede, et al presente la conseruano tra/Mille trauagli, pene, e morti, C. li 17 Christiani secolari Giapponesi, 9 de quali fuxo=/~~no~~ conuertiti alla Fede dai Padre di S. Francesco, et 8 da quelli della Comp^a. che con 300 milla altri stauano all' hora sotto la cura dell'istessa Compagnia/di Giesù, D. Li 2 Padri della med^a. Comp^a. che essortuano i Santi Martri alla ...stanza nella Fede di Christo, E. Guadia Moscheltieri

銘帯 Auf der Banderole: Christo confixi sumus Cruci, ad Gal: 2

東京大学付属図書館 (A100/826) 蔵
Bibliothek der Universität Tokyo

26人全員の磔刑

Die Kreuzigung aller 26 Märtyrer

本図は、26人全員がそろった殉教図の最も早い作例のひとつであり、J. カロのエッチング(3)と、十字架の遠近法的配列法および、棕櫚の枝と月桂冠を殉教者に用意

する天使ケルビムのモチーフなどの点で密接な関係にある(これについては本文29-30頁参照)。

Dieses Titelkupfer von G. P. Bianchi, das eines der frühesten Beispiele von der Darstellung der Kreuzigung aller 26 Märtyrer ist, hat enge Beziehungen zu der Radierung von Callot (Kat. Nr. 3): in der perspektivischen Aufstellung der Kreuze und in dem Motiv der Cherubinen, die den Märtyrern Palmzweig und Lorbeerkranz reichen. Vgl. auch den Text S. 29-30.



5

タンツィオ・ダ・ヴァラルロ, 本名アントニオ・デンリコ
Tanzio da Varallo, eigentlich Antonio d'Enrico (Alagna um 1575—1635 Varallo?; Thieme-Becker, XXXII, 436-437)

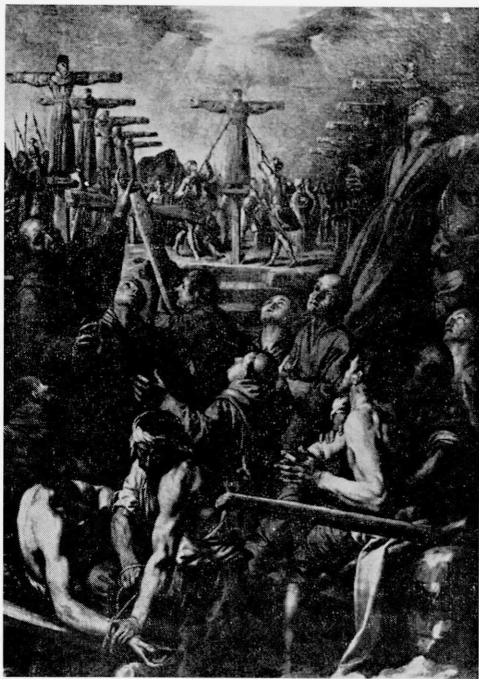
ミラノ, プレラ美術館・油彩, カンヴァス, 115×80 cm
Milano, Pinacoteca di Brera, Nr. 385: Öl auf Leinwand, 115×80 cm

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

この油彩画は、1811年、ヴァラロの修道院からブレラ美術館に入ったものであるが、タンツィオはヴァラロで1628年以後まで仕事をしている。カロのエッチング(3)を思わせるこの作品についてÉ・マールは、タンツィオはカロの版画を知っていたのであろうと推定している。本文18頁参照。

Dieses Ölgemälde erwarb die Pinakothek Brera 1811 aus dem Convento delle Grazie in Varallo, wo Tanzio bis nach 1628 arbeitete.—É. Mäle vermutet, daß Tanzio wahrscheinlich die Radierung von Callot (Kat. Nr. 3) kannte.—Siehe auch den Text S. 29.

文献 Lit.: *Thieme-Becker*, XXXII (1938), 437; *Mäle, Après Trente*, 119; *Pigler, Barockthemen*, Bd. I, 434, Tafelband, Taf. 142; E. Modigliani, *Catalogo della Pinacoteca di Brera in Milano*, Milano 1966, 77 (Nr. 385); 坂本満『日本キリスト教徒殉教図の二, 三について』、『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年, 68-69頁(第二十三回総会研究発表要旨); 坂本満「三人たりない殉教者」、『芸術新潮』1969年11月号, 108頁, 挿図; 坂本満・吉村元雄『南蛮美術』, 小学館(日本の美術34)1974, 94頁, 挿図3



ベトロ・ビヴェリウス(イエズス会士)著『十字架の聖所並びに十字架にかけられた人及び十字架を負った人の忍耐』(アントワープ・1634年刊)の銅版挿絵

Illustration (Kupferstich) zu: Petro Biverius (S. J.): *Sanctuarium Crucis et Patientiae Crucifixorum et Cruciferorum*, Antverpiae 1634

下部余白の銘 Inscriptio unten am Rande: Cedite nunc Fotoqui, Christi vicere tropaea. Germinat ex nostro Sanguine diva fides.

パリ, 国立図書館蔵 Paris, Bibliothèque Nationale (図版提供: 坂本満氏)

26人全員の磔刑

Die Kreuzigung aller 26 Märtyrer

本文19頁参照。Siehe den Text S. 30.

文献 Lit.: J. B. Knipping, *Iconography of the Counter Reformation in the Netherlands—Heaven on earth*, Nieuwkoop—Leiden 1974, Vol. I, 137; 坂本満「日本キリスト教徒殉教図の二, 三について」、『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年, 69頁



パリ国立図書館蔵の銅版画 (1684年)

Kupferstich aus dem Jahr 1684 (Paris, Bibliothèque Nationale)

データ不明 Genauerer unbekannt

(図版提供: 坂本満氏)

下部余白の銘 *Inscrift unten am Rande: Il'Glorioso Pre: F. PIETRO Batta: della Prousa: di S. Gioseppe fondata da S. Pietro d'Alcantara in Spagna/della piu stretta Ossa del P. S. Fran^{co}: Ando Comiss^o: alla Proua di S: Gregorio dell' isole Filippine, Poi Am:basatore pil Re; Catto a 'Taicozama quabacondono Imperatore del Giappon, riceuuto con grand'hono/re, e'di suo consenso predicaua publicam^{te}: la fede di Xpto: à quegli Idolatri, oue edificio molte chiese, e Monasterÿ: Poi carcerato con suoi compagni tre P. P. sacerdoti, FRAN^{co}: FILIPPO, e MARTINO, et GON:/ZALO, e FRAN^{co}: laici, con 17 del 3^o: ordine del P. S. Fran^{co}: suoi discepoli, e dopo lungo Martirio furono,/crocifissi, e con colpi di lancia ne fianchi fatti uolar al Cielo li 5 Febrao 1597, e furono li seoni:/martiri della Riforma, e da Vrbano VIII l'anno 1726 dichiarati Martiri.*

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer



クエルナバカ (メキシコ), 司教座大聖堂: フレスコ壁画, 17世紀前半 (1627年以後?)

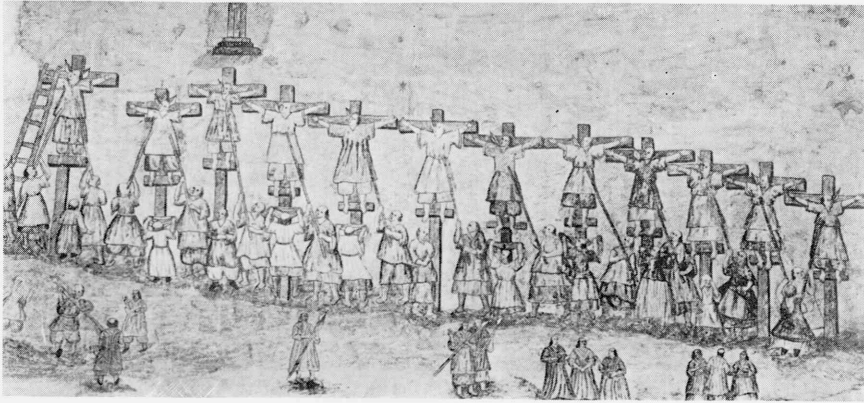
Cuernavaca (Mexico), Catedral: Fresken aus der ersten Hälfte des 17. Jh. (nach 1627?)

日本26殉教者物語 (26人の磔刑図を含む)

Die Geschichte der 26 Japanischen Märtyrer (mit der Kreuzigung der 26 Märtyrer)

クエルナバカ司教座大聖堂は、16世紀にフランシスコ会の教会 (アスンシオン) として建てられ、1891年司教座聖堂となった。クエルナバカは、1613年伊達正宗によりローマへ派遣された支倉常長が、アカブルコからこの地を通してベラクルスの港に達し、ローマに出発したところで、また、東洋へ布教に行く宣教師たちの一大根拠地でもあった。1959年の改築工事中に18世紀の壁画層の下から発見された日本26殉教者物語の諸場面は、単廊式聖堂の左右両壁 (高さ8m) にそれぞれ30mにわたって描かれ、荷車に乗せられて引き廻される場面、馬で護送される場面、大村湾を船で渡る場面、時津に上陸する場面、磔刑の場面が残存する。南壁の銘帯に銘の一部が残っている(.....RESIVENEN・JAPON.....EMPERADOR・TAYCOSAMA・MANDO・MARIIZAR・POR...)。北壁に描かれた処刑の場面では、合計13人がはりつけにされているところが残っており、あとは剥落してしまっている。上陸する場面 (北壁) で、ニブスのある殉教者が26人数えられる (ただし、船の場面では28人) ので、26人全員の殉教図と考えられる。はりつけの場面の下の方に、十字架が幾つか見られるが、これは、処刑後の模様と推定されている (本間正義氏論文参照)。十字架の下には布を掲げた人が一人ずつつき、殉教者の血を受けている。壁画を描いた画家については何も知られていない。ルイス・イスラス・ガルシアは、この壁画全体の構図やディテールにおける、鎖国前後のキリシタン絵画との類似を指摘し、一方、本間正義氏は、〈欧風とインデオ風のまじったメキシカン・スタイルに、さらに日本の要素が加わって出来たもの〉とし、制作時期を〈実際に日本人が参加し得た支倉使節団の滞留時期の1615/16年を中心とする頃〉に置いている。これに対して、〈聖フェリペと共にフェリペ号に乗り合わせ、あるいは、殉教にも居あわせたかもしれないフィリッピン人によって画かれた〉とする説 (『キリシタン研究』VIII) もある。なお、壁画の制作の時期については、上陸する場面で殉教者たちがニブスをつけて表わされていることから、1627年の列福式以後と考える方が適当であろう。

Die Geschichte der Japanischen Märtyrer ist auf den südlichen und nördlichen Wänden der einschiffigen Kirche, die im 16. Jahrhundert gebaut wurde und seit 1891 Kathedrale ist, jede 30m lang (8m hoch),



gemalt. Die Fresken, die 1959 während des Umbaus unter den Malschichten des 18. Jahrhunderts entdeckt wurden, sind nicht vollständig auf uns gekommen. Erhalten sind: die Städtefahrt der Ochsenkarren; der Ritt zu Pferd der Gefangenen nach Nagasaki; die Schifffahrt in der Bucht von Omura; die Landung in Tokitsu; die Kreuzigung. Die Szene der Hinrichtung ist an der Nordwand placiert: heute sind nur 13 Gekreuzigte erhalten.

文献 Lit.: Luis Islas Garcia, „Excelsior“ (Zeitung von Mexico), 11. Feb. 1962; Manuel Quesada Brandí, San Felipe de Jesús, Mexico 1962, Abb.;

パチェコ・ディエゴ「メキシコの聖者フェリペ・デ・ヘスス」、『長崎談叢』第40輯(1962年), 20頁;「メキシコの日本二十六聖殉教者壁画」、『キリシタン研究』VIII, 1963年, 176-177頁, 図版; 本間正義「クエルナバカ寺院での新発見・海をわたった長崎殉教者の図——中世における日本とメキシコの交流について」、『三彩』No. 183, 1965/3, 9-24頁, 図版; 挿図; 伊藤静江「日本殉教者緑りの国——メキシコ便り」、『カトリック新聞』1967年10月22日号; 松田毅一『江戸・南蛮・東京』, 読売新聞社, 1971年, 39-45頁, カラー図版; 高山智博『マヤとインカ美術』, 講談社(グランド世界美術7), 1975年, 図版91

9, 10

ラザロ・バルド・デ・ラゴス(1628-1669年活動)

Lázaro Pardo de Lagos (tätig 1628-1669)

クスコ(ペルー), レコレータ(フランシスコ会聖堂): 2点の絵画(油彩・テンペラ), 1630年, 署名入り

Cuzco(Peru), Recoleta(Franziskaner-Kirche): zwei Gemälde(in Öl und Tempera), 1630 datiert, signiert

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

M. ソリアは, これら2点の作品が日本人を忠実に写している指摘し, それは多分銅版画を通じてであろうと推定している。

M. Soria weist darauf hin, daß die getreue Wiedergabe der Japaner in diesen beiden Gemälden auf den Kupferstich zurückgeht.

文献 Lit.: G. Kubler—M. Soria, *Art and Architecture in Spain and Portugal and their american dominions 1500 to 1800*, Harmondsworth 1959, 323; パチェコ「リマ植民時代美術に現れた日本の殉教者」, 184頁

11 (a—w)

リマ(ペルー), 聖フランシスコ修道院廻廊: 庭園側のアーチを支える柱の陶板(セビリア製), 17世紀前半
Lima(Peru), Convento de San Francisco, Kreuzgang: Sevillianer Kacheln (Azulejos) aus der ersten Hälfte des 17. Jh.

(図版提供: ティエゴ・パチェコ師)

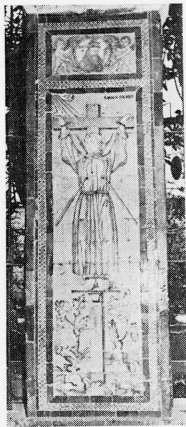
フランシスコ会関係の殉教者23人の磔刑(23点)

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer (23 Kachelbilder)

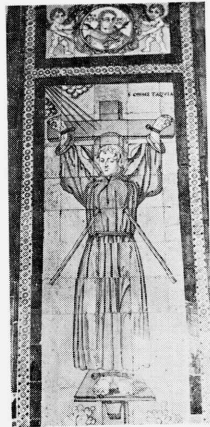
この修道院の廻廊の柱には合計40人のフランシスコ会関係の殉教者像が各柱一人ずつ陶板に表されているが(183×60cm), そのうちの23人が1597年長崎における殉教者である。これらの陶板は1638—39年にセビリアから舶来された。

Im Kreuzgang des Franziskaner-Klosters in Lima sind insgesamt 40 Märtyrer des Franziskanerordens, je einer auf jedem Pfeiler, in Kachelbildern (Sevillianer Kacheln) dargestellt, davon sind 23 die Märtyrer von Nagasaki im Jahr 1597. Diese Kacheln wurde 1638-39 von Sevilla importiert.

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」, 170-181頁, 図版(聖トマス談義者, 聖ガブリエル)



鈴木パウロ
Paulus Suzuki



たけ屋コスメ
Takeya Kosme

下部に六行にわたるポルトガル語銘 Unten portugiesische Inschrift in 6 Zeilen: Glorioso Martirio dos 23 Santos Proto-Martires do Japão da Ordem Serafica das Filipinas, Martirizados por Mandado do Imperador Taycozama em Nangazaqui aos 5 de Fevereiro de 1597. E canonizados pelo S.^{mo} P. Urbano 8^o no Anno de 1627. Tenho condenado estes prezos a Morte porq. viêraõ das Filipinas ao Japaõ com o fingido titulo de Embaixdr.^s, e p.^r q. têm presist.^o nas M.^{as} terras se' M.^a licença e prégado a Lei dos Christaons contra o meu Decreto. Mando, e quero que sejaõ crucificados na Minha cidade de Nangazaqui.

(図版提供：ジャイメ・コエリョ師)

フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

ポルトガル語銘文中には23人のうちの4名の名前が欠けている。画面中央部の下よりに3本の十字架のみがみえるが、これはイエズス会の3人のためのものである。

Unten in der Mitte des Bildes sind drei leere Kreuze für die drei Jesuiten zu sehen.

文献 Lit.: Gloriozo Martirio dos 23 Santos Proto-Martires do Japaõ [da Ordem Serafica das Filipinas, Martirizados por mandado do Imperador Taycozama em] Nangazaqui aos 5 de Fevereiro de 1597. [E canonizados pelo S.^{mo} P. Urbano 8^o. mo Anno de 1627.] *Arquivos de Macau*, Vol. III, No. 1, 1930, p. 21-22, plate; 中山省三郎「澳門紀行」, 『世界紀行文学全集, 第十一卷, 中国篇 II』, 修道社, 1971年; 可児弘明「マカオ買梅土博物院にある一五九七年長崎殉教者図」, 『史学』第39巻第3号, 115~119頁, 挿図

12

マテウス・ファン?

Mateus Van?

マカオ, 買梅土博物院: 油彩画, 176×254cm, 1644年?
Makao, Museu Luis de Camões: Ölgemälde, 176×254 cm, 1644?



ラウレンチウス・デ・アトラス

Lawrentius de Atlas

ファン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『フィリピン諸島・シナ・日本・その他におけるサン・フランシスコ会のサン・グレゴリオ管区年代記』第III巻(マニラ・1744年刊)の銅版扉絵

Titelkupfer zu: *Chronicas/De La/Apostolica Provincia/De San Gregorio, De Religiosos Descalzos De N. S. P./S. Francisco,/En Las Islas Philipinas,/China, Japan, & C./Parte Tercera, De La Celebrissima Seraphica Mission De Japon: Con/La Descripcion De Aqvel Imperio:/Glorioso Trivunpho De Nvestros/Protho-Martyres Invictos./S. Pedro Bautista,/Y Svs Compañero, Svs Vidas, Sv Beatificacion, Y Cvltos./A Qvienes/La Consagra Sv Avtor, El P. Fr. Jvan Francisco De San Antonio,/Matritense, Lector de Artes, y Theologia Escolastica, y Moral, Calificador del Santo Oficio, Ex-Difinidor, y Chronista/General de ladicha Provincia. /Impressa en la Imprenta, de el vso de ella, sita en el Convento de Nuestra/Señora de Loreto, en el Pueblo de Sampaloc, Extra-muros de la Ciudad/ de Manila: Por Juan del Sotillo. Año de 1744. [Laures 614 (418)].*

下部の銘帯に署名年記 Auf der unteren Banderole signiert und datiert: Laur.^{us} Atlas. Sculp. Manilae a.^o 1744

下部の銘帯の銘 Inschrift auf der unteren Banderole: GLORIOSO MARTYRIO/De los veinte, y tres SS. Protho Martyres ã Japõ. S. Pedro Bap-tista y sus Compañeros, perteneciẽtes à la Ordẽ Seraphica, y Provincia/de Descalzos de San Gregorio de Philipinas

長崎, 26聖人記念館; 天理大学付属図書館蔵

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer; Tenri, Bibliothek der Universität

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

十字架の脚にそれぞれ殉教者の名が記されている。左端には、長崎港に湾泊するルイ・メンデス・デ・フィグエイレドのガレオン船が見え、船上に追放された4人のフランシスコ会士が描れている。本文21頁参照。

In der unteren linken Ecke ist die Galeone des Rui Mendes de Figueiredo dargestellt, auf deren Bord die vier des Landes verwiesenen Franziskaner zu sehen sind. Siehe auch den Test S. 31-32.

文献(図版掲載) Lit. (abgebildet bei): *Bibliotheca Asiatica et Africana*, London 1929, V, 56-57 (Kat. Nr. 521); 木村太郎訳・松崎実注『日本廿六聖人殉教記』, 岩波書店, 1931年, 口絵 1, (375頁): *Frois—Galdos, Relación del Martirio*, (133); A. M. Carlo—J. Calvo, *Testimonios Autenticos Acerca de los Protomartyres del Japon*, Mexico 1954; M. Cooper—A. Ebisawa—F. G. Guitérrez—D. Pacheco, *The Southern Barbarians. The First Europeans*, Tokyo (講談社) 1971, Pl. 33; M. Cooper, *Rodrigues The Interpreter. An Early Jesuit in Japan and China*, New York—Tokyo 1974, Fig. 7



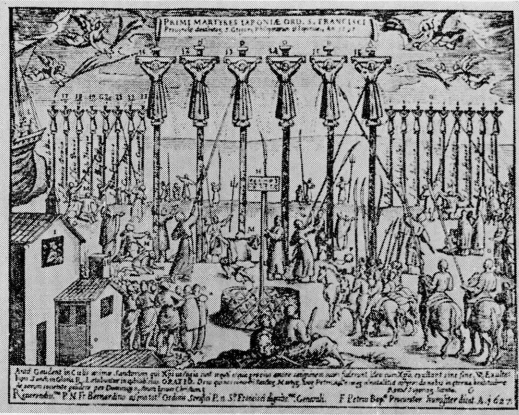
マニラのフィリピン図書館所蔵本：ファン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『年代記』（本カタログ13参照），第III巻（マニラ・1744年刊）の木版挿絵
Buchillustration (Holzschnitt) in dem in der Philipinischen Bibliothek zu Manila befindlichen Exemplar des dritten Bandes von: Juan Francisco de San Antonio, *Chronica de la Apostolica Provincia de San Gregorio*, Vol. III, Manila 1744 (Siehe Kat. Nr. 13). [*Laures 614 (418)*]

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

本文21頁参照。Siehe den Text S.31-32.

図版掲載：アビラ・ヒロン『日本王国記』，岩波書店・大航海時代叢書XI，1965年，260頁の挿図



ニコラ・モネータ（19世紀後半・ローマの銅版画家）

Nicola Moneta (Kupferstecher in Rom, zweite Hälfte des 19. Jh.; Thieme-Becker, XXV, 63)

ルイジ・グレゴリ（ボローニヤの画家，1883年頃歿）の原画による，アグスティノ・ダ・オシモ著『日本フランシスコ会23殉教者伝』（ローマ・1862年刊）の銅版扉絵（18.4×9.5 cm）

Titelkupfer (18.4×9.5 cm) nach Luigi Gregori (Maler von Bologna, gest. um 1883; Thieme-Becker, XIV, 578) zu: *Storia dei Ventitre Martiri Giapponesi dell'Ordine dei Minori Osservanti detti Scalzi di S. Francesco.....scritta per la circostanza della solenne canonizzazione dal P. Agostino da Osimo.....dedicata alla Santità di nostro Signore*

Pio Papa IX. Roma, Tipografia Tiberina. 1862. [*aures 741 (512)*].

署名 Signiert: L. Gregori dis.; N. Moneta inc.

下部余白に銘 Inschrift unten am Rande: I SS. MARTIRI FRANCESCANI PIERBATTISTA COMMISSARIO, MARTINO D'ACQUIRE, FRANCESCO BLANCO, FILIPPO LAS CASAS, GONZALVO GARZIA, FRANCESCO DALLA PARIGLIA, LEONE GARASUMA, PAOLO SUZUQUI, MICHELE COSAQUI, PAOLO IBARCHI, TOMMASO IDANQUI, FRANCESCO MEDICO, GABRIELE DUIZCO, BONAVENTURA DI MEACO, TOMMASO COSAQUI, GIOVANNI QUIZUJA, COSIMO TAQUIA, ANTONIO DI NAGASACHI, LODOVICO IBARCHI, GIOACCHINO SAQUIYE, MATTIA DI MEACO, PEITRO SUQUEZIO, E FRANCESCO PAHELANTE, SCALZI. Per la fede di Gesù Cristo crocifissi l'anno 1597, nel Giappone, e Canonizzati dalla S^{ta}. di N^{ro}. Signore PIO IX. P. M. nella Basilica Vaticana li 8. di Giugno 1862.



上智大学吉利支丹文庫 (KB535/43/41-330); 長崎, 純心女子短期大学; 九州大学蔵
 Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko;
 Nagasaki, Junshin zweijährige Hochschule; Fukuoka, Universität Kyushu
 フランシスコ会関係23人の磔刑
 Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

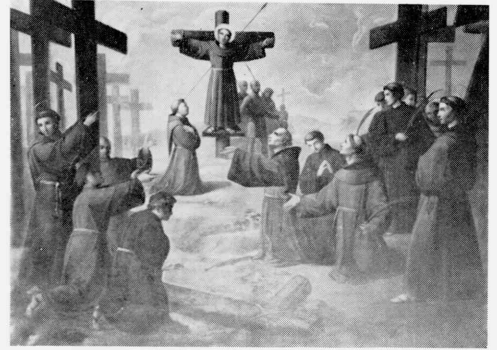
16

ローマ, サン・フランチェスコ・ア・リーパのフランシスコ会修道院: 油彩画, 74×100 cm, 1862年頃
 Roma, Kloster S. Francesco a Ripa: Ölgemälde (74×100 cm) um 1862

フランシスコ会関係23人の磔刑
 Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

文献: 『聲』1942年2月号(792号), 挿図

文献: 『キリシタン研究』VIII, 1963年, 図版および図版解説



17

札幌, 聖フランシスコ会修道院: 油彩画, 98×135 cm
 Sapporo (Japan), Franziskaner-Kloster, Ölgemälde (98×135 cm)

フランシスコ会関係23人の磔刑
 Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

ローマのフランシスコ会修道院所蔵のもの(本カタログ16参照)のコピーと思われる。1910年ローマから札幌に贈物としてもたらされたという。

Dieses Ölgemälde, das 1910 von Rom nach Sapporo als Geschenk gebracht wurde, scheint eine Kopie nach dem Gemälde im Kloster S. Francesco a Ripa in Rom (Kat. Nr. 16) zu sein.

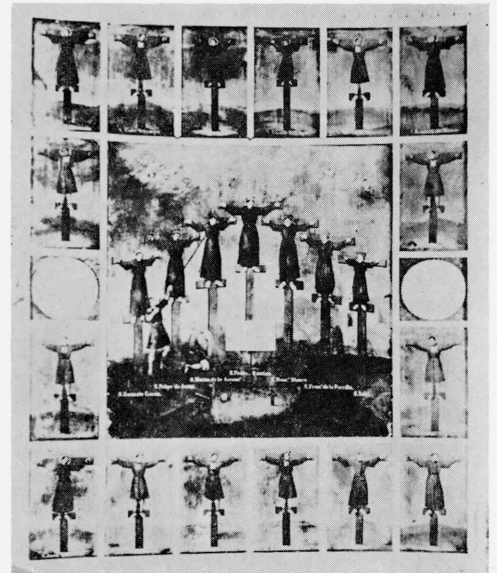
18

データ不明 Genaueres unbekannt

(図版提供: 片岡弥吉氏)

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer



ii. 3 イエズス会士の磔刑図

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

19

モデナ (イタリア)・1628年刊『3 イエズス会士の輝ける死の小報告』の木版扉絵 (13.6×10.7 cm)

Titelblatt (Holschnitt: 13.6×10.7 cm) zu: Breve Relatione Della Gloriosa Morte. E Martirio di tre Religiosi della Compagnia di Giesù Paolo, Giovanni, E Giacomo... In Modona (sic!)... MDCXXVIII. [*Laures* 380 (252)].

東洋文庫 (O-17-C/61); 天理大学付属図書館蔵

Tokyo, Toyo Bunko; Tenri, Bibliothek der Universität

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献: 木村太郎訳・松崎實校註『日本廿六聖人殉教記』, 岩波書店, 1931年, 口絵 2, 375-376 頁



20

ジョヴァンニ・ランフランコ

Giovanni Lanfranco (Parma 1582—1647 Roma; Thieme-Becker, XXII, 309-311)

ナポリ, イル・ジェズー・スオヴォー聖堂: フレスコ
Napoli, Chiesa del Gesù Nuovo: Fresco

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

ランフランコは1633年ないし1634年にナポリに行き, ジェズー・スオヴォー聖堂のフレスコ壁画の制作にたずさわった。

Lanfranco ging 1633/1634 nach Neapel, wo er bei der Ausschmückung des Gesù Nuovo tätig war.

文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118; *Léau, Iconographie III*, 291

21

カヴァリエーレ・ダルビーノ, 本名ジュゼッペ・チエーザリ

Cavaliere d'Arpino, eigentlich Giuseppe Cesari (Roma 1568—1640 Roma; Thieme-Becker, VI, 309-312)

ローマ, イル・ジェズー聖堂: 油彩画

Roma, Chiesa del Gesù: Ölgemälde

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: G. Baglione, *Le vite de' pittori ...*, 1642 (ed. 1733, 257); *Pigler, Barockthemen*, Bd. 1, 434

22 (a, b, c)

ビエール・ミヨット (17世紀中葉のブルゴーニュの銅版画家)

Pierre Miotte (burgundischer Kupferstecher um Mitte des 17. h.; Thieme-Becker, XXIV, 584)

アントニオ・フランシスコ・カルディム著『日本殉教精華』(ローマ・1646年刊)の銅版挿絵(3点)

Buchillustrationen (drei Kupferstiche) zu: Fascicvlvs /E Iapponicis Floribvs./Svo Adhvc Madentibvs Sangvine./Compositvs/A. P. Antonio Francisco Cardim/è Societate Iesv/Prouincia Iapponiae ad Urbem/Procuratore./Qvi Legitis Flores./Hos Legite./Sic Qvoniã Postiti Svaves/Miscentvr Odores./Romae, Typis Heredum Corbelletti. 1646/Svperiorvm Permissv. [*Laures* 444 (303)].

各葉下部余白の銘 Inschriften unten am Rande jedes Blattes: S. Paulus Michi Iappon, Societ. IESV, crucifixus, & lanceis transfixus propter. Fidē Nangasachi. 5. Febr. 1597.—S. Iacobus Kisai Iappon,

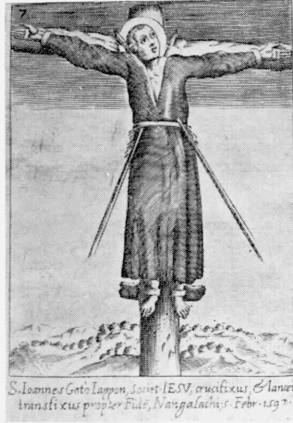
Societ. IESV, crucifixus & lanceis transfixus propter Fidē, Nāgasachi. 5. Febr. 1597.—S. Ioannes Gotō Iappon, Societ. IESV, crucifixus, & lanceis transfixus propter Fidē, Nangasachis, S. Febr. 1597.

長崎県立図書館 (316/2/329); 上智大学吉利支丹文庫; 東京大学付属図書館; 東洋文庫; 京都大学; 天理大学付属図書館; 国立国会図書館; 慶応大学; 大阪, 南蛮文化館蔵

Nagasaki, Präfekturbibliothek; Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Bibliothek der Universität Tokyo; Tokyo, Toyo Bunko; Universität Kyoto; Tenri, Bibliothek der Universität; Tokyo, Saatlische Parlamentsbibliothek; Tokyo, Keio Universität; Osaka, Nanban Bunka Kan



a)



b)



c)

a) 三木パウロの磔刑, b) 五島ジョアンの磔刑, c) き齋ディオゴの磔刑

a) Die Kreuzigung von Paulus Michi; b) die von Joannes Goto; c) die von Jacobus Kisai

これら3点の銅版画には署名がないが、カルティムの『日本殉教精華』に挿入された版画の多くには、ピエール・ミヨットの署名 (Petrus Miotte Burgundus Sculp.) が入っているので、3イエズス会士を表わしたこれらの図も彼の手になるものと思われる。

Diese drei Kupferstiche tragen zwar keine Signatur von Pierre Miotte, aber sie scheinen von ihm zu stammen, weil viele der Illustrationen in diesem Buch von diesem Kupferstecher signiert sind: Petrus Miotte Burgundus Sculp.

23

東京, 個人蔵: 油彩画 (89×117.5 cm)

Tokyo, Privatbesitz: Ölgemälde (89×117.5 cm)

枠の上下の縁に銘 Inscript oben und unten auf dem Rahmen: Drij ghekruijste Japonnoisen, Wt de Soci'. Jesu, den 5. Febr. 1597. S. Paulus Michi. oudt 33. S. Iacobus Khisai. oudt 64. S. Joannes Goto. oudt. 19.

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

(図版提供: 福永重樹氏)

文献: 岡田章雄篇『図説 日本の歴史 第10巻 キリシタンの世紀』, 集英社 1975, 図版 204 (解説: 福永重樹)



24

カニャッチ, 本名グァイド・カンラッシ

Cagnacci, eigentlich Guido Canlassi (S. Arcangelo di Romagna 1601—1681 Wien; Thieme-Becker, V, 505—506)

リミニ, サン・フランチェスコ・サヴェリオ聖堂, 内陣右壁・油彩画

Rimini, Chiesa di S. Francesco Saverio, Presbys-terium (rechte Seite): Ölgemälde

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: Fr. Noack, in: Thieme-Becker, V (1911), 505; *Guida d'Italia del Touring-Club Italiano, Emilia e Romagna*, Milano 1957, 569; 吉浦盛純「耶蘇會日本三聖人殉教圖—リミニ市所在—」, 『日本カトリック新聞』第826号(1941年9月14日), 16頁

25

カニャッチ (本カタログ24参照)

Cagnacci (Siehe Kat. Nr. 24)

リミニ, 絵画館: 油彩画 (120×190 cm)

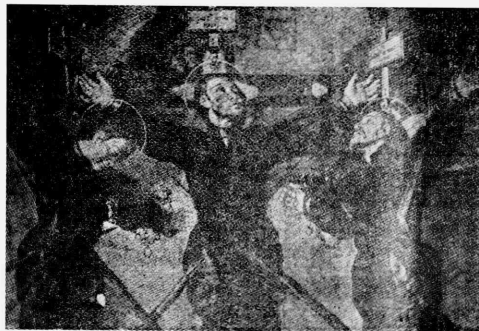
Rimini, Pinacoteca: Ölgemälde (120×190 cm)

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本図は, リミニのサン・フランチェスコ・サヴェリオ聖堂内にある油彩画(本カタログ24参照)と大きさ・構図・色彩において極めて類似している。恐らくそのレプリカであろう。

Dieses Werk ist in der Größe, der Komposition und der Farbgebung mit dem Ölgemälde in der Kirche S. Francesco Saverio in Rimini (siehe Kat. Nr. 24) sehr eng verwandt, was an eine Replik denken läßt.



文献 Lit.: 吉浦盛純「耶蘇會日本三聖人殉教圖—リミニ市所在—」, 『日本カトリック新聞』第826号(1941年9月14日), 16頁, 挿図; Léau, *Iconographie III*, 921

26

ロレンツォ・バシネリ

Lorenzo Pasinelli (Bologna 1629—1700 Bologna; Thieme-Becker, XXVI, 269—270)

ボローニャ, サンタ・ルチア聖堂: 油彩画

Bologna, Chiesa di S. Lucia: Gemälde

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: L. Crespi, *Vite de' pittori bolognesi non descr. etc.*, 1769, 134; *Pilger, Barockthemen*, Bd. I, 434

27

スヘルテ・アダムス・ボルスウェルト

Schelte Adams Bolswert (Bolsward um 1581—1659 Antwerpen; Thieme-Becker, IV, 255)

アブラハム・ファン・ディーベンベークの原画によるエングレーヴィング (43×26.8cm)

Kupferstich (43×26.8cm) nach Abraham (Jans.) van Diepenbeeck (Hertogenbosch 1596—1675 Antwerpen; Thieme-Becker, IX, 243—254)

下部余白に銘 Inschrift unten am Rande: PRIMITIAE MARTYRUM SOCIETATIS IESU IN ECCLESIA IAPONICA /B. IACOBUS GHISAI LXIV. annorum: Meditationi Passionis Crucis D. N. IESU Christi singulariter addictus./B. PAULUS MICHl XXXIII. annorum: Ardens Zelo animarum Iaponiae ad fidem Crucis Christi conuertendarum, /B. IOANNES GOTHO XIX. annorum: Ab vtero Christianus, in flore Innocentiae et Adolescentiae religiosam Christi crucem portans/TRIGEMINI IAPONES./Anno Salutis MDXCVII. regnante mandante Taicosamã prope Nangasacum, pro nomine Domini IESU,/in CRUCEM acti, lanceis per latera transverati, gloriose, profuso sanguine, occubuerunt:/nunc MIRACULIS clari, Pontifice Opt: Max: URBANO VIII. Iubente ac volente, sacris honoribus donati./anno MDCXXVIII. natali

die, V. FEBRUARII, toto orbe, celebrantur.
RELIGIOSIS SOCIETATIS. IESU COADIUTO-
RIBUS S. A BOLSWERT SCULPTOR D.D.C.Q.
Cum priuliegio.

右下に署名 Signiert rechts unten: Abr. à Diepenbeke delin.

国立西洋美術館 (G・1971-11; 1971年ロジャー・キース氏寄贈); ミュンヘン, 国立版画素描コレクション (Inv.-

Nr. 548) 蔵

Tokyo, Nationalmuseum für Westliche Kunst (Inv.-Nr. P-G・1971-11); München, Staatliche Graphische Sammlung (Inv.-Nr. 548)

3 イエズス会士の磔列

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

J.B. クニッピンは本図の制作年代を 1650 年頃としている。本図のコピーについては、本カタログ28を参照。



FRIMITÆ MARTYRVM SOCIETATIS IESV IN ECCLESIA IAPONICA
B. LACOMIS GHISAI LXIY. annoque: Medietatem Japonicæ Cruci P.N. IESV Christi singulariter adductus.
B. PAPLES MICHU XXXIII. annoque: Ardus Zelo missionum Japonicæ ad fulcra Crucis Christi conuertendaron.
B. IOANNES GOTO XIX. annoque: Ab veteri Christianitate, in fere immortalia et Adhucque religionem Christi cruce peractis
TRIGEMINI IAPONES.
Anno Salutis MDXCIV regnante Co-mandante Fûtsûfand prope Nangatsucum, pro nomine Domini IESV,
in CRUCEM alti, lateris per latera transverberati, aliorum, profusa sanguine, occiderunt.
nunc MIRACVLIS laui. Pontifice Ope. Max. VRBANO VIII. iubente ac volente, sacri honoribus donati,
anno MDCXXVIII. natali die. V. FEBRUARII, toto orbe, celebrantur.
RELIGIOSIS SOCIETATIS IESV COADIUTORIBVS S. A BOLSWERT SCULPTOR D. D. C. Q.

なお、S.A. ボルスウェルトは、この他にも、Johan de Goto (12.8×8.8cm) および Paul Michi (12.8×9cm) を単独に表わした銅版画を残している (F.W. Hollstein, *Dutch and Flemish etchings, engravings and woodcuts*, Vol. III, 91: Nr. 336 und 339)。

Bei J. B. Knipping ist als Entstehungsdatum dieses Kupferstichs die Zeit um 1650 angegeben.—Für die Kopie dieses Werkes siehe Kat. Nr. 28.—Es gibt außerdem Kupferstiche von S. A. Bolswert, die einzeln Johan de Goto und Paul Michi darstellen (vgl. Hollstein, III, S. 91)。

文献 Lit.: Ch. le Blanc, *Manuel de l'Amateur d'Estampes*, 181; A. v. Wurzbach, *Niederländisches Künstler-Lexikon*, 6; *Mâle, Après Trente*, 118; Réau, *Iconographie III*, 921; F. W. H. Hollstein, *Dutch and Flemish etchings, engravings and woodcuts ca. 1450–1700*, Vol. III, 83 (Nr. 255), Vol. V, 242; 『国立西洋美術館年報』No. 6/1972, 14頁 (新収作品目録), 挿図; *Lexikon der christlichen Ikonographie*, Bd. 7, Rom—Freiburg—Basel—Wien 1974, 44–45 (Abb.); J. B. Knipping, *Iconography of the Counter Reformation in the Netherlands—Heaven on earth*, Nieuwkoop—Leiden 1974, Vol. I, 137, Abb.

28

ミュンヘン・1674年刊『イエズス会の聖殉教者パウロ、イオアナおよびヤコボの聖務日課』の銅版扉絵 (5.3×4cm)

Titelkupfer (5.3×4cm) zu: Tag-Zeiten/oder Siebenstündige Gemüts-Erhebungen/von den H. H. Martyrern Paulo, Ioanne,/vnd Jacobo./Der Gesellschaft Jesu/Religiosen./Welche in Japan/samt/anderen 23 Martyrern den 5./Feb. dess 1597. Jahrs/am Creutz/wegen dess Christlich Catholi-schen Glaubens gemartert/worden./Gedruckt zu München/Sebastian Rauch/1674. [*Laures 512 (355a)*].

国立国会図書館 (貴—6421) 蔵

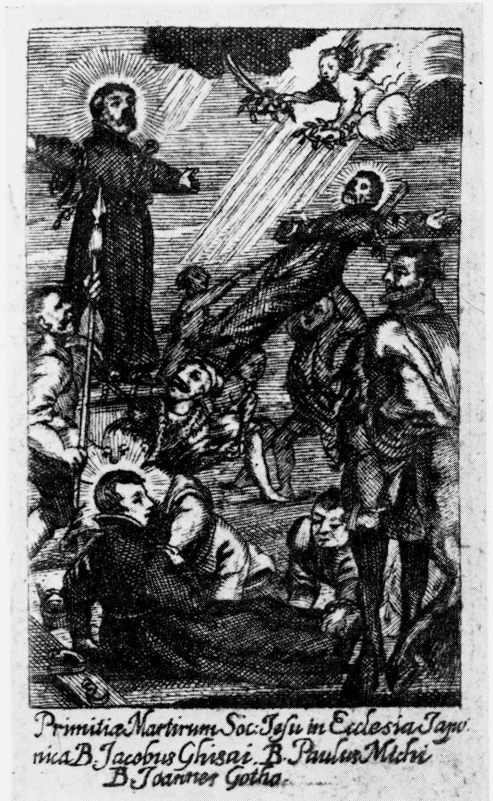
Tokyo, Staatliche Parlamentsbibliothek

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

S.A. ボルスウェルトの銅版画 (本カタログ 27) によるコピー。

Kopie nach dem Kupferstich von S. A. Bolswert (Kat. Nr. 27)



29

メルヒオール・キュセル (アウグスブルクの銅版画家)
Melchior Küsel (Mitglied der Augsburger Kupferstecherfamilie, 1626—um 1683; Thieme-Becker, XXII, 73–74)

カレル・シュトノヴスキー・スクレータの原画による、
マティアス・タンナー著『イエズス会殉教者伝』(プラハ・1676年刊)の銅版挿絵

Buchillustration (Kupferstich) nach Karel Šotnovský Skreta (Prag 1610—1674 Prag; Thieme-Becker, XXXI, 125) zu: Societas/Jesu/Usque/Ad Sanguinis/Et Vitae Profusionem Militans,/In Europa, Africa, Asia, Et America./Contra Gentiles, Mahometanos, Judaeos, Haereticos,/Impios, Pro/Deo, Fide./Ecclesia, Pietate./Sive/Vita, Et Mors/Eorum, Qui/Ex Societate Jesu in causa Fidei, & Vir-/tutis progugnatae, violentâ morte toto Orbe/sublati sunt./

Auctore R. Patre Mathia Tanner è Societate Jesu, / SS. Theologiae Doctore./Pragae, Typis Universitatis Caroli-Ferdinandae, in Signiert Collegio Societatis / Jesu adS. Clementem, per Joannem Nicolaum Hampel Factorem./Anno M. DC. LXXV. [*Laures 513 (356)*].

余白右下に署名 Signiert rechts unten am Rande: M. K. f.

下部余白の銘 Inschrift unten am Rande: S. Paulus Miki, S. Ioannes de Goto, S. Iacobus Gisai, Iapones Soc. IESV, pro Fide Christi Crucifixi Nangasaki in Iaponia. A. 1597. 5. Februarj.

長崎, 26殉教者記念館; 上智大学吉利支丹文庫; 天理大学付属図書館蔵

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer; Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tenri, Bibliothek

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本図にスクレーターの署名はないが、この『イエズス会殉教者伝』に挿入された数多くの殉教場面の銅版画の原画は彼の手になるもので、しばしば Carlo Screti deli という署名がある。



Diese Illustration trägt keine Signatur von K. S. Skreta, aber nach seinen Zeichnungen sind viele Märtyrerszenen in diesem Buch graviert, die oft signiert sind: Carlo Screti deli.

文献 Lit.: *Thieme-Becker*, XXII (1928), 74; *Thieme-Becker*, XXXI (1937), 126; 『日本二十六聖人 長崎』, 24頁 (挿図)

30

リマ, 聖ペドロ聖堂, 香部屋の前部屋: 油彩画, 17世紀末?

Lima, Iglesia de San Pedro, Zimmer vor der Sakristei; Ölgemälde, Ende des 17. Jh.?

下部の銘 Inschrift unten am Rande: San Pablo Miqui, San Juan Goto y San Diego Quisai de la Compañia de Jesus primicias de los martires del Japon que despues de muchas molestias y afrentas fueron crucificados y alanceados.

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten.

3つの十字架をこのように前後に重ねた3イエズス会士殉教図は、この他には見当たらない。

Außer diesem Gemälde ist kein Beispiel der Kreuzigung der drei Jesuiten zu finden, in dem die Kreuze, wie in diesem Bild, hintereinander aufgestellt sind.

文献: パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」, 183-184頁



フランソワ・ブーシェ

François Boucher (Paris 1703—1770 Paris; Thieme-Becker, IV, 428—432)

ベルリン, フリッツ・コング=コレクション: 油彩画, 58×73cm

Berlin, Sammlung Fritz Jung: Ölgemälde, 58×73cm

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

この作品は, H. フォスによってブーシェ初期(イタリアから帰国後間もないころ)の作品と認定された。L. レオーは, 本図のイエズス会士のまとう衣服がフランシスコ会のものであることを指摘している。

Dieses Gemälde wurde von H. Voss als Frühwerk F. Bouchers (bald nach seiner Rückkehr von Italien) anerkannt.—L. Léau weist darauf hin, daß die Jesuiten in diesem Bild mit dem Habit des Franziskanerordens bekleidet sind.

文献 Lit.: Réau, *Iconographie III*, 921; H. Voss, *François Boucher's Early Development*, *Burlington Magazine*, 1953, p. 86, Fig. 49, Fig. 41



ローラン・カール

Laurent Cars (Lyon 1699—1771 Paris; Thieme-Becker, VI, 82—83)

フランソワ・ブーシェ原画(本カタログ31参照)による
エンブレイヴィング

Kupferstich nach François Bucher (siehe Kat. Nr. 31)

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: H. Voss, *Francois Boucher's Early Development*, *Burlington Magazine*, 1953, p. 86, Fig. 50



エルコーレ・ルスビ(ローマの画家)

Ercolo Ruspi (Maler in Rom; Thieme-Becker, XXIX, 226)

1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた絵(現所蔵者不明)

Gemälde, das bei der Kanonsiation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt war: jetziger Besitzer unbekannt

銘 Inschrift: MARTYRUM. CORPORA/FERIS. AVIBUSQUE. DISCERPENDA. RELINQUUNTUR QUAE. INGENITAE. AVIDITATIS. OBLITAE VICTRICES. EXSUVIAS/ATtingere. NON. AUDENT

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: *Descrizione Dell'Apparato/Fatto/Nella Basilica Vaticana/Per La Solenne Canonizzazione/Di Ventisette Beati/Celebrata/Dalla Santità Di N. S. Papa Pio IX/Il Di 8 Giugno 1862/Roma/Dalla Tipografia Di Enrico Sinimberghi/1862*, p. 38. [*Laures 753 (523a)*] (上智大学吉利支丹文庫蔵 Tokyo, Sophia Universitat, Kirishitan Bunko: KB 539/40/50—4115)

34

ローマ、イエズス会の家、サン・エスタニスラオ礼拝堂
(サン・アンドレアス・アル・キリナーレの旧イエズス
会修練院): 油彩画 (44×34cm)

Roma, Residenza S. J., Cappella di San Estanislao
(Noviziat der Jesuiten in S. Andreas al Quirinale):
Ölgemälde (44×34cm)

下部の銘 Inscript unten: B. PAVLVS MICH B.
IOANNES DE GOTO B. JACOBUS CHISAI
IAPON. SOC. IESU PRO XPI FIDE CRUCIFIXI
LANCEISQUE TRANSXI V FEBR. MCL
XXXXVII

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: Frois—Galdos, *Relación del Martirio*,
134, Abb. (gegenüber S. 129)



35

長崎, 26殉教者記念館: メダル (4.3×3.7cm)

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (4.3×
3.7cm)

銘 Inscript: SS. MM. IAP. S.I

他面にフランシスコ・ザビエル像 Auf der anderen
Seite Hl. Franz Xavier: S. FRANC. XAVER. S. I.
IND. E. IAP. AP.

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本カタログ34の作品と比較できる。

Dieses Werk ist mit dem von Kat. Nr. 34 vergleich-
bar.



36

データ不明 Genauerer unbekannt

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten



iii. 列聖式(1862年)以後の26聖人全員の磔刑図
**Die Kreuzigung von allen 26 Heiligen (Beispiele
 nach der Kanonisation im Jahre 1862)**

37

トマス・カルロス・カプス

Tomás Carlos Capúz (Valencia 1834—1899 Madrid;
 Thieme-Becker, V, 560—561)

エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラール著『日本殉
 教者伝』(マドリッド・1862年刊)の表紙に使われてい
 る木口木版(5.9×9cm)

Holzstich (5.9×9cm), das auf dem Deckel des
 folgenden Buches zu sehen ist: *Vidas/De Los/
 Mártires Del Japón,/San Pedro Bautista, San
 Martín De La Ascension,/San Francisco Blanco y
 San Francisco De San Miguel,/Todos De la Orden
 De San Francisco, Naturales De España, seguida de
 una reseña biográfica de los 22 restantes no es-
 pañoles,/Y La De/San Miguel De Los Santos,
 Confesor, de la Orden de Trinitarios descalzos, y
 español igualmente, Redactadas Por D. Eustaquio
 María De Nenclares./Con Licencia Del Ordinario.
 /Madrid:/Imprenta De La Esperanza, Á Cargo De
 D. Antonio Pérez Dubrull, Editor,/calle del Pez,
 num. 6, cuarto principal./1862. [Laures 748(519)].*

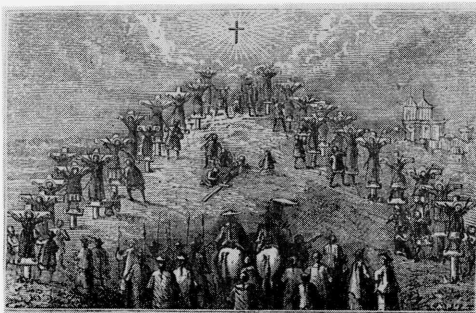
右下に署名 Signiert rechts unten: CAPVZ

上智大学吉利支丹文庫 (KB535/42/41—134) 蔵
 Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

図版掲載: 武内恒次譯「日本殉教者列伝(1862年第2版)
 —ドン・エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラール
 編」, (二), 『日本文化』Ⅲ, 197頁, 挿図



38

エスカルピーン

Escarpizo

エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラール著『日本殉
 教者伝』(マドリッド・1862年刊, 本カタログ37参照)
 の挿絵(16×27cm): ホアキン・マギストリス(1882年
 マドリッドで歿)の原画による石版画

Buchillustration (16×27cm) zu E. M. de Nenclares,
Vida de los Mártires del Japon, Madrid 1862
 (Siehe Kat. Nr. 37): Lithographie nach Joaquin
 Magistris (gest. in Madrid 1882; Thieme-Becker,
 XXIII, 557—558)

左下の署名 Signiert links unten: Lit^a de Escarpizo

右下の署名 Signiert rechts unten: O^o Magistris

下部の銘 Inschrift unten: VISTA DEL CALVA-
 RIO DE NANGASAKI en el que Eueron crucifica-
 dos los veintiseis Martires del Japon en 5. de Febrero
 de 1597. y canonizados en 8. de Junio de 1862.
 dibujada con presencia de la relacion del cronista Fr.
 Juan Pobre testigo del martirio.

上智大学吉利支丹文庫 (KB535/42/41—134); 長崎,
 26聖人記念館蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko;
 Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer

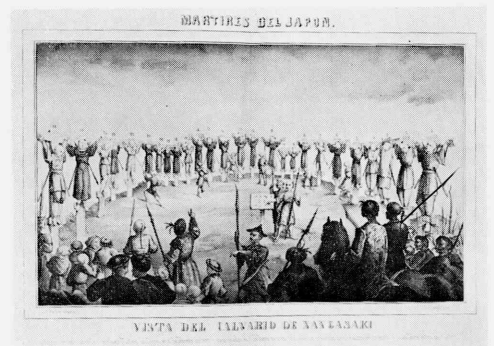
日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

各殉教者に付された番号はファン・ホブールの『教会史』
 第2部第3巻第2章281頁による。

Für die Nummern, die jedem Märtyrer beigegeben
 sind, vgl. Juan Pobre, *Historia eclesiastica*, 2. Teil,
 3. Kap., 2. Abschnitt, S. 281.

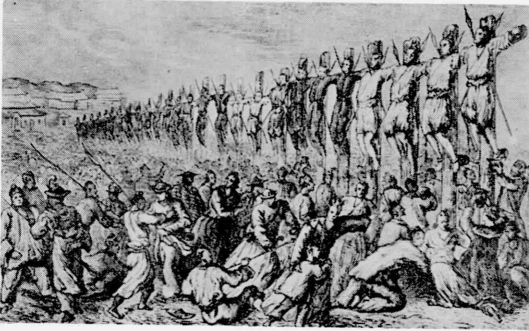
文献 Lit.: Felipe Robles Dégano, *Vida y martirio
 de San Pedro Bautista*, Madrid 1927; Frois—
 Galdos, *Relación del Martirio*, (133)



N. A. A. アウセムス著『聖ペドロ・バプチスタ伝』（ブレダ・1862年刊）の銅版鼻絵

Titelkupfer zu: De HH. Petrus Bautista en zijne gaezellen eerste martelaers voan Japan, gekruisigd te Nagasaki, den 5 February 1597. Bewerket door. N. A. A. Aussems, Priester der Orde van den H. Franciscus. Breda: J. Hermans & Zoon. 1862. [*Laures* 743(513)].

長崎県立図書館蔵 Nagasaki, Präfekturbibliothek.



Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本文22頁参照。Vgl. den Text S. 32.

文献 Lit.: 永山時英『増訂切支丹史料集』, 長崎・対外史料寶鑑刊行会, 1926年, 14図 (Tokihide Nagayama, Collection of Historical Materials, connected with the Roman Catholic Religion in Japan, 1926, pl. 14.)
図版掲載: 本間正義「クエルナバカ寺院での新発見・海をわたった長崎殉教の図——中世における日本とメキシコの交流について——」, 『三彩』No. 183 (1965/3), 写真 10

オーギュスト・ポントゥニエ（パリの複製木版画家）

Auguste Pontenier (reproduz. Holzschneider in Paris, Geb. in Moulins; Thieme-Becker, XXVII, 248)

D. ブイー著『日本26聖人史話』（パリ / リヨン・1862年刊）の扉絵: ジャネット・ラニス原画による木口木版 (9.9×14.8cm)

Titelblatt (9.9×14.8cm, Holzstich nach Janet Lanys) zu: Histoire/Des Vingt-Six/Martyrs Du Japon/Crucifiés A Nagasaqui, Le 5 Février 1597/Avec/Un Aperçu Historique Sur Les Chrétientés Du Japon/Depuis Cette Époque Jusqu' A Nos Jours/Par D. Bouix/Docteur en Théologie et en Droit canon./Libraire Catholique De Perisse Frères/Imprimeurs-Libraires De N. S. P. Le Pape. Paris.../Lyon.../1862. [*Laures* 745(516)].

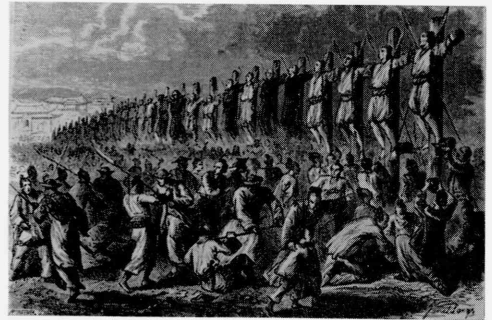
左下および右下に署名 Signiert links unten und rechts unten: PONTENIER. SC.; Janet Lanys

上智大学吉利支丹文庫; 千代田図書館; 九州大学蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tokyo, Chiyoda Bibliothek; Fukuoka, Universität Kyushu

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本文22頁参照。Vgl. den Text S. 32.



41

オーギュスト・ポントゥニエ (本カタログ40参照)

Anguste Pontenier (siehe Kat. Nr. 40)

M. ド・モントロン著『日本聖殉教者』(リール/パリ刊)
の木口木版扉絵 (11.8×7.3cm)

Titelblatt (Holzstich, 11.8×7.3cm) zu: Les Saints/
Martyrs Du Japon/Pelerinage A Rome/En Juin
1862/Par Maxime De Montrond/Chevalier de Saint-
Grégoire le Grand/Troisième Édition/Librairie De J.
Lefort/Imprimeur Editeur/Lille Paris (n. d.)

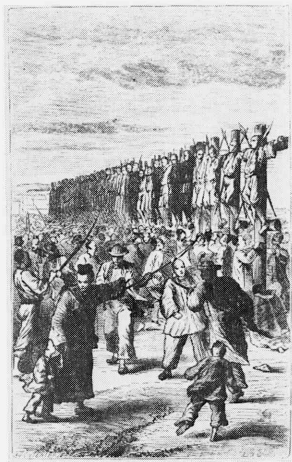
左下に署名 Signiert links unten: PONTENIER

国立国会図書館 (A-77) 蔵

Tokyo, Staatliche Parlamentsbibliothek

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen



42

石田有年 (弘化元年近江水口に生まれ, 大正5年歿)

Aritoshi Ishida (1844—1916)

大阪 (天主堂)・明治20年刊『日本廿六聖人 致命略伝
全』の銅版挿絵 (9.8×14.8cm)

Titelkupfer (9.8×14.8cm) zu dem 1887 in Okaka
(Japan) erschienenen Buch über die 26 Japanischen
Heiligen

長崎県立図書館蔵 Nagasaki, Prefäkturbibliothek

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本カタログ39ないし40の作品によるコピー。本文22頁参
照。

Kopie nach dem Werk Kat. Nr. 39 bzw. 40. Vgl. den
Text S. 32.

文献: 西村貞『日本銅版画志』, 東京・書物展望社, 1941
年, 419頁, 図版



43

石田有年 (本カタログ42参照)

Aritoshi Ishida (Siehe Kat. Nr. 42)

ピリヨン関・加古義一編『日本聖人鮮血遺書』(京都・
明治20年刊)の銅版挿絵 (15.2×20.4cm)

Buchillustration (Kupferstich, 15.2×20.4cm) zu dem
1887 in Kyoto erschienenen Buch über die japa-
nischen Märtyrer, das von A. Villion durchgesehen
und von Giichi Kako zusammengestellt wurde

銘: 「慶長元年二月五日長崎立山に於て日本廿六聖人致
命の図」

上智大学吉利支丹文庫蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko

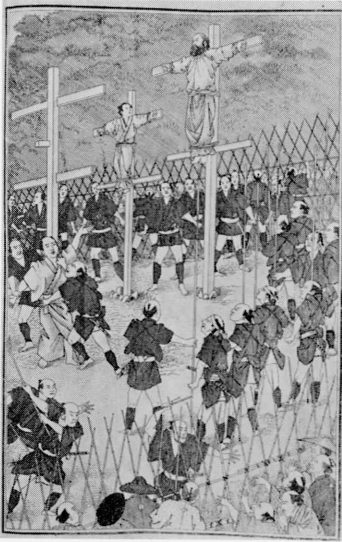
日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

明治44年 (1911年)の増訂版では石版刷りとなってい
る。

文献: 西村貞『日本銅版画志』, 東京・書物展望社, 1941
年, 418—419頁;

図版掲載: 松崎實『考註切支丹鮮血遺書』, 改造社, 1926
年; 三木露風『日本カトリック教史』, 東京・第一書房,
1929年; メイラン師跋・鈴木習之編『日本二十六聖人』,
東京・星光社, 1932年, 表紙; 山本秀煌『廿六聖人殉教
史話』, 東京・不二屋書房, 1935年, 図版



44

長崎，大浦天主堂（日本26殉教者聖堂），内陣：油彩画，1869年

Nagasaki, Kirche der 26 Japanischen Heiligen Märtyrer zu Oura: Ölgemälde, 1869

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

1867年横浜を出発してフランス・イタリアへ旅立ったB. プチジャン司教は、1868年ローマで同地の画家（片岡弥吉氏によればトーレスという名の画家）に製作を依頼して日本に戻った。彼は、着物・刀・陣笠などを送っ

て、出来るだけ写実的に描かせたという。

Im Auftrag des französischen Japan-Missionars, Pater B. Petitjean, im Jahre 1868 wurde dieses Ölgemälde von einem Maler in Rom (namens C. Torres?) gemalt.

文献：『キリシタン研究』VIII, 1963年，図版・解説；片岡弥吉『長崎の殉教者』，角川選書33, 1970年，86頁，挿図；『開港四百年・長崎図録』，長崎開港400年記念実行委員会，1970年，図版11；『聖地長崎・長崎のキリシタン遺跡』，14頁挿図



45

G. マリアーノ

G. Mariano

ローマ、サン・アントニオ・ディ・パードヴァ聖堂（所蔵？）：油彩画（約250×250cm）

Roma, Chiesa di S. Antonio di Padova(?): Ölgemälde (ca. 250×250cm)

署名 Signiert: G. Mariano

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

幸田成友（「羅馬に在る日本殉教者図」, 1931年）によれば、〈今サン・ジョーバニ寺の祭壇に近く左手のカペレの壁に嵌込んである〉という。一方、永山時英『増訂切支丹史料集』にも、本図と同じ図柄の挿絵が掲載されているが、その〈原図はレニンスブルクの某寺院に在り〉と述べられている。

文献：幸田成友『羅馬に在る日本殉教者図』、『和蘭夜話』、同文社、1931年、260–261頁、挿図；永山時英『増訂切支丹史料集』、長崎・対外史料寶鑑刊行会、1926年、第一三図

図版掲載：松崎實『切支丹殉教記』、春秋社、1925年；尾池義雄『切支丹宗門戦の研究』、昭文堂、1926年『切支丹風土記・九州編』、宝文館、1960年、140頁；『日本と世界の歴史13：16世紀』、学習研究社、1970年、97頁（岡田章雄）



46

長崎市立博物館：日本画、紙（65.0×76.5cm）、昭和20年頃

Nagasaki, Städtisches Museum: Papier (65.0×76.5cm), ca. 1945

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本カタログ44の作品のコピー。

Kopie nach dem Werk Kat. Nr. 44.



47

中田秀和（明治42年五島に生まれる）

Hidekazu Nakata (geb. in Goto/Japan 1909)

長崎、26聖人記念館：油彩画、1942年

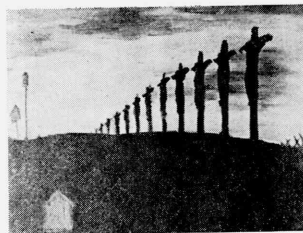
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Ölgemälde, 1942

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der (26) Japanischen Heiligen

《黄昏》と題して昭和17年の第6回カトリック美術協会展に出品された。

図版掲載：『聲』、1942年2月号（第792号）、挿図



48

中田秀和（本カタログ47参照）

Hidekazu Nakata (siehe Kat. Nr. 47)

所蔵者不明（作者所蔵？）：油彩画（25号）、1944年

Jetziger Besitzer unbekannt: Ölgemälde, 1944

日本 (26) 聖人の磔刑

Die Kreuzigung der (26) Japanischen Märtyrer

脇田司教の依頼で製作されたもの。

図版掲載 Abgebildet bei: Th. Uytenbroeck—S. Schneider, *The Twenty-Six Martyrs of Japan (Historical Background; Authentic Biographical stories)*, Nagasaki 1919 (小沢謙一訳『日本二十六聖殉教者——歴史的背景と略伝』, 中央出版社, 図版); 池田敏雄『人物による日本カトリック教会史——聖職者および信徒75名伝』, 中央出版社, 1968年, 挿図



49 (a.b.c.)

長谷川路可 (東京 明治30年—ローマ 昭和42年)

Luka Hasegawa (Tokyo 1897—1967 Roma)

チヴィタヴェッキア (イタリア), 日本聖殉教者聖堂 (フランススコ会修道院附属): 内陣壁画 (高さ 5 m), 1954年

Civitavecchia (Italien), Chiesa dei Ss. Maritiri Giapponesi: Apsisfresken (Höhe: 5m), 1954

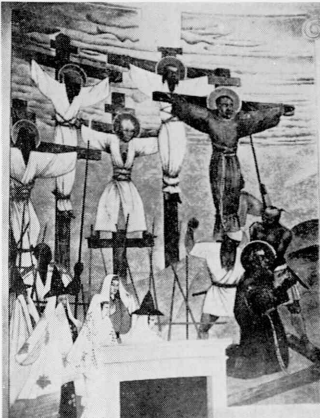
日本(26)聖人の磔刑場面 (長崎への道中および殉教直前のエピソード 2 場面を伴う)

Die Martyriumszenen der (26) Japanischen Heiligen Märtyrer (mit zwei Episoden vom Weg nach Nagasaki und unmittelbar vor dem Martyrium)

聖堂は、1862年の列聖記念として1864年フランススコ会によって建てられ、祭壇には26聖人殉教図があったとい

う。しかし第二次大戦で破壊されたため、1950年再建された際、長谷川路可氏に聖堂の中央祭壇の周囲とその天井のための壁画が依頼された。祭壇後方の5つの壁面のうち、中央部(幅3m)および左右(幅、各4m)に磔刑場面が描かれ、さらに《枝川堤の宿場で長崎へと殉教の旅路を急ぐ一行に同行を懇願する薬師フランススコ》および《同宿アントニオと長崎奉行寺沢ハサプロ》の2場面が左右の両端に加えられている。なお、本壁画の下絵(紙本着色, 34.7×201.3, 1951年)は、長谷川路可夫人(東京)が所蔵している。

文献: 片岡弥吉「二十六聖人殉教の位置とその宗教」, 『長崎談叢』, 第27輯, 1955年, 22-23頁; 『キリシタンの美術』, 宝文館, 1961年, 69頁(内山善一解説), 図版; 長谷川路可「チヴィタ・ヴェッキア壁画の由来」, 『キリシタン研究』VIII, 1963年, 195-198頁, 図版



長谷川路可 (本カタログ49参照)

Luka Hasegawa (Siehe Kat. Nr. 49)

長崎, 26聖人記念館壁面: フレスコ壁画, 1967年

Fresko (1967) auf der Wandfläche des Museums der
26 Märtyrer zu Nagasaki

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

磔刑図は《長崎への道》と題する14場面からなる壁画の最後の場面として描かれている。なお、大阪の南蛮文化館にこのフレスコ壁画のための習作 (35×77cm) がある。



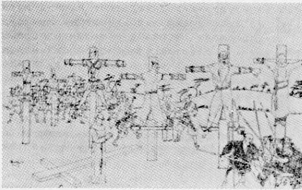
51

M. マレガ著『キリシタンの英雄たち』(1968年, ドン・ボスコ社刊) の挿絵 (8.4×13cm)

Buchillustration (8.4×13cm) zu dem 1968 in Tokyo erschienenen Buch von M. Marega über die Helden der japanischen Christen

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen



iv. 殉教場面を表わすその他の作品

Andere Beispiele der Martyriumszene

52

ベルナルド・カヴァリーノ

Bernardo Cavallino (Napoli 1622—1654 Napoli; Thieme-Becker, VI, 224—225)

行方不明の (1597年長崎における殉教者) 磔刑図 (1840年刊 B. デ・ドミニチ著『ナポリの画家伝』に記されている作品)。

Verschollenes Gemälde der Kreuzigung der Märtyrern in Nagasaki im Jahr 1597, das von B. De Dominici (*Vite de' Pittori etc. napoletani*, ed. 1840/46, III, 163) erwähnt ist.

文献 Lit.: B. De Dominici, op. cit.; *Pigler, Barockthemen*, Bd. I, 434

53

フランチェスコ・マフェイ

Francesco Maffei Vicenza um 1620?—1660 Padua; Thieme-Becker, XXIII, 550)

スキオ, 聖フランチェスコ聖堂内陣: 油彩画

Schio, Chiesa di S. Francesco (Chor): Ölgemälde

(図版提供: 坂本満氏)

フランシスコ会関係23人の殉教

Das Martyrium der 23 Märtyrer

本図の画面左, やや上方に殉教者たちを指し示しつつ座する殉教指揮者が描れているが, このモチーフは, ベリーノ・ダ・ヴァーガの《一万人の殉教》(1522/3年頃のフレスコ画のためのカルトン, J. Shearman, *Mannerism*, Harmondsworth 1967, fig. 28 参照) や, ベルナルデッーノ・ボッチェッティのフレスコ壁画《ベツレヘムの幼児虐殺》(1610年, フィレンツェ・捨て子養育院, F. Würtenberger, *Der Manierismus—Der europäische Stil des sechzehnten Jahrhunderts*, Wien/München 1962, Abb.) などに見られるように典型的なマニエリスムのモチーフである。

Links oben im Bild ist der Befehlshaber, sitzend, dargestellt, der mit dem Finger auf die Märtyrer weist: ein typisch manieristisches Motiv, das z. B. in dem Karton (ca. 1522/23) des Perino da Vaga für ein Fresko des Martyriums der Zehntausend oder im Fresko (1610) des Bethlehemschen Kinder-mordes von Bernardino Poccetti im Findelhaus zu

Florenz zu sehen ist.

文献：坂本満「日本キリスト教徒殉教図の二、三について」、『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年, 69頁(第二十三回総会研究発表要旨)；坂本満「三人たりない殉教者」、『芸術新潮』1969年11月号, 108頁；坂本満・吉村之雄『南蛮美術』, 小学館(日本の美術34), 1974年, 94頁



54

コルネリウス・ハツァールト著『教会史』第1巻(ウィーン・1678年刊)の銅版挿絵(11.6×15.3cm)

Buchillustration (Kupferstich, 11.6×15.3cm) zu: Kirchen-Geschichte/Das ist:/Catholisches Christenthum/durch die ganze Welt außgebeitet/Insonderheit/Bey nächst verflrossenen und anjetzo fließenden/Jahrhundert/Darinnen kürztlich beschrieben wird/Jedes Land Arth und Belegenheit der/Einländer Lebens-Sitten eygenthumliche Secten Satzungen Staats-Wesen Geist-und Weltliche Gepräg; besonders aber und/anßführlich beygebracht die erste Einpflanzung das Auffnehmen und die Erweiterung deß allda eingeführten wahren Christ-Glaubens: wie solchers von/vilen eyfrigen Blutzuegen verfochten von Lob-und merck-würdigen Tugend-Thaten viler anderer Christ-Helden gezieret und von vilen/wundersamen Begebnissen bekräftiget worden/Mit vilfältigen Kupffern zu füglicher Erkandnuß abgebildet. Erstlich beschriben und an Tag gegeben/Durch/R.P. Cornelium Hazart, Soc. Jesu./Nunmehr aber/Auß der Nider-in die Hoch-Teutsche Sprach übersetzt/und vermehret./Der erste Theil in sich begreifend/Die Asiatische Länder Japon, China, Tartaria, Mogor, und Bisnagar./Cum Gratia & Privilegio Sacrae Caesareae Majestatis./Permissu Superiorum./Gedruckt zu Wienn in Cesterreich/Durch Leopoldum Voigt/einer Löblichen Universität Buchdrucker/Anno M. DC. LXXVIII.



[*Laures* 523 (363)].

上智大学吉利支丹文庫(KB401/1/41-341); 東北大学蔵
Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Sendai,
Tohoku Universität

1597年長崎の殉教

Das Martyrium in Nagasaki im Jahre 1597

殉教する3人のイエズス会士と4人のフランシスコ会士
が表わされている。

55 (a—f)

ホルト, 聖フランシスコ聖堂: レタベルの彫刻
Porto, Igreja de São Francisco: Retabelskulpturen
十字架にかけられたフランシスコ会士6名の像
Ssechs Franziskaner am Kreuze
文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118

56

M. マティス (ベルリン) 旧蔵: 17世紀・イタリアの絵
Ehem. Berlin, W. Matthis: Italienisches Gemälde
aus dem 17. Jh.

1597年長崎における殉教者の磔刑図

Die Kreuzigung der Märtyrer von Nagasaki im Jahre
1597

文献 Lit.: *Der Cicerone*, 1927, 384; *Pigler, Barock-
themen*, Bd. I, 434

II. 1597年の長崎における殉教者を表わす作品 Werke, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen

v. 十字架を持つイエズス会士

Die drei Jesuiten, die das Kreuz halten

57

ローマ, イル・ジェズー聖堂, 香部屋: 17世紀前半の絵
(104.2×210 cm)

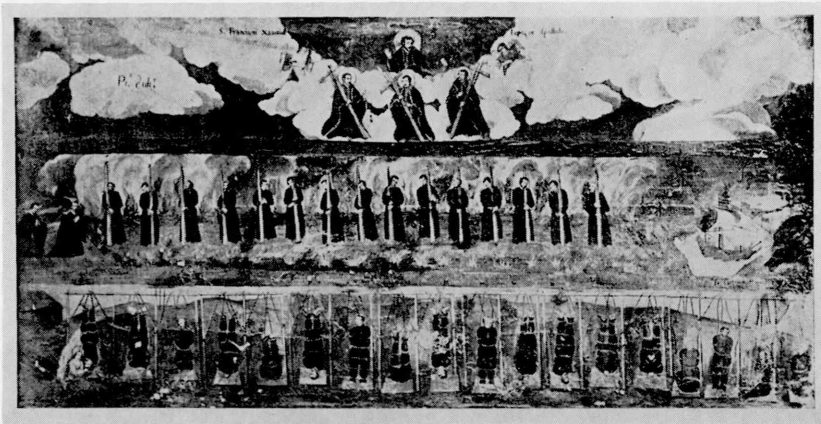
Roma, Chiesa del Gesù, Sakristei: Gemälde aus
der ersten Hälfte des 17. Jh. (104.2×210cm)

1597–1633年の日本における殉教イエズス会士(1597年
の長崎における3イエズス会士殉教者を含む)
Jesuitenmartyrer in Japan von 1597 bis 1633
(darunter die drei Jesuitenmartyrer von 1597)

26殉教者中の3イエズス会士は三段のうちの最上部に、
フランシスコ・ザビエルと共に表わされている。長谷川
路可氏は、〈西欧の素人画家〉の手になるものと推定して
いるが、一方、R. P. タッキ・ヴェントーリ (*Frois—
Galdos*, 134頁参照) は、本図は日本、多分、長崎で描
れて、17世紀前半にローマに送り届けられた作品と考え
ている。イル・ジェズー聖堂の香部屋にある合計三点の
日本殉教者図(他の二点は元和八年長崎大殉教図と元和
五年五名殉教図)のうち、本図が最も洋風画派の作風に
近いことは坂本満氏により指摘されている通りである。

L. Hasegawa schreibt dieses Gemälde einem europä-
ischen Laienmaler zu, während R. P. Tacchi Venturi
(vgl. *Frois—Galdos, Relación del Martirio*, 134) der
Meinung ist, daß es in Japan, wahrscheinlich in
Nagasaki, gemalt und dann in der ersten Hälfte des
17. Jahrhunderts nach Rom geschickt wurde. Dieses
Bild ist allerdings unter den insgesamt drei Werken
in der Sakristei von Il Gesù, die die japanischen
Märtyrer darstellen (die anderen zwei haben das
Martyrium im Jahre 1619 und das im Jahre 1622
zum Thema) am besten mit der japanischen Malerei
im europäischen Stil vergleichbar, wie M. Sakamoto
meint.

文献 Lit.: 幸田成友「羅馬に在る日本殉教者図」, 『和
蘭夜話』, 同文社, 1931年, 246頁, 図(三); G.
Schurhammer, *Die Jesuitenmissionare des 16. und
17. Jahrhunderts und ihr Einfluß auf die japanische
Malerei*. Sonderdruck aus dem „Jubiläums-Band“
1933 der „Deutschen Gesellschaft für Natur- und
Völkerkunde Ostasiens“ in Tokyo, S. 7; *Frois—*



Galdos, *Relación del Martirio*, 134, Fig.; R. Boxer, *Christian century in Japan*, Berkeley/London 1951, plate; 『キリシタンの美術』, 東京・宝文館, 1961年, 158-159頁 (No. 154, 解説=長谷川路可), 図版; 『南蛮美術と洋風画』, 小学館 (〈原色日本の美術 25〉), 1970

年, 77頁, 図39 (解説=坂本満); 松田毅一『南蛮のバテレン——東西交渉史の問題をさぐる』, NHK ブックス, 1970年, 177頁 (挿図); 坂本満『初期洋風画』, 至文堂 (〈日本の美術〉 No. 80), 1973年, 第88図, 93頁

58 (a, b)

フランシスコ・ディアス・デル・リベロ (スペイン・グラナダの彫刻家, 1592—1670年)

Francisco Diaz del Rivero (spanischer Bildhauer, tätig zu Granada; Thieme-Becker, IX, 213)

グラナダ, 聖ジュスト・聖ラストール聖堂 (イエズス会の教会): レタベルの本彫, 1630年頃

Granada, Iglesia de los Santos Justos y Rastor (Antigua Iglesia de la Compañía Jesus): Holzskulpturen des Retabels, um 1630

a) 三木パウロ, b) 五島ジョアン

a) Paulus Michi, b) Johannes Goto

この聖堂自体は1580年に建築が開始され, 1621年に完成した。フランシスコ・ディアス・デル・リベロ作の祭壇中央上部には, 現在フランシスコ・ザビエル像が置かれているが, 当初はその下, 聖櫃の上部に, つまり, 現在聖母マリア像 (これは年代が下がる) がある位置に置かれていたものと推定される。これを挟んで左にパウロ三木, 右に五島ジョアンが配されている。き斎ディオゴの像は, 今は見られないが, 当初は中央上部に置かれていたらしい。

Heute ist zwar die Statue des Jakobus Kisai nicht vorhanden, aber sie dürfte ursprünglich oben in der Mitte des Retabels, wo man jetzt die Statue des

Franziskus Xaver sieht, placiert gewesen sein.

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 202-203頁, 図版; 『日本二十六聖人・長崎』, 5頁, 挿図



a)



b)

59 (a, b, c)

アロンソ・デ・サアヴェドラ (スペインの木彫家)

Alonso de Saavedra (Spanischer Holzbildhauer; Thieme-Becker, XXIX, 279)

カディス (スペイン), サンチアゴ聖堂 (イエズス会の教会): レタベルの木彫, 1670年

Cádiz, Iglesia del Apostel Santiago de la Compañia Jesus): Holzskulpturen der Retabel, 1670

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

a) 三木パウロ, b) 五島ジョアン, c) き斎ディオゴ
b) Paulus Michi, b) Johannes Goto, c) Jakobus Kisai

中央にフランシスコ・ザビエルの像, その周囲に日本3イエズス会士の像が配されている。

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 203頁



b)



c)

60 (a, b)

リマ, 聖ペドロ聖堂, 香部屋: 陶板, 17世紀末

Lima, Iglesia de San Pedro, Sacristia: Azulejo aus dem Ende des 17. Jh.

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

a) 三木パウロ, b) き斎ディオゴ



b)

a) Paulus Michi, b) Jakobus Kisai

恐らくセビリアから舶来されたもの。

Wahrscheinlich von Sevilla importiert.

文献: パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」, 183頁

61

アンドレア・ポッツォのアトリエ (?)

Werkstatt des Andrea Pozzo (Trient 1642—1709 Wien; Thieme-Becker, XXVII, 334—336)

ウィーン, イエズス会の聖堂: 油彩画, 18世紀初頭 (?)
Wien, Jesuitenkirche (Universitätskirche): Seitliches Ölgemälde in der 2. Kapelle (Evangelistenseite), Anfang des 18. Jh. (?)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: B. Grimschitz, *Universitätskirche Wien*, München—Zürich 1956 (Kunstführer Nr. 392 von 1938, 2. neubearbeitete Auflage 1956), 8; J. Schmidt—H. Tietze, *Wien* (Dehio-Handbuch), Wien—München 1960 (fünfte, ergänzte Auflage, neubearbeitet von A. Macku und E. Neumann), 27



62

トラウンキルヘン (上部オーストリア), 旧イエズス会修道院聖堂: 油彩画 (18世紀?)

Traunkirchen (Oberösterreich), ehemalige Klosterkirche des Jesuitenordens (heute Pfarrkirche): Seitliches Ölgemälde im Presbyterium, 18. Jh.?

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: E. Nürnberger, *Traunkirchens heilige Stätten (Pfarrkirche, Kapellen und Friedhof)*, Linz 1965, S. 14 (= Abbildung des Presbyteriums)



64

トラウンキルヘン, イエズス会修道院: 油彩画

Traunkirchen, ehemaliges Kloster des Jesuitenordens: Ölgemälde

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



63

トラウンキルヘン, 旧イエズス会修道院: 油彩画

Traunkirchen, ehemaliges Kloster des Jesuitenordens: Ölgemälde

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

下部の銘 Inschrift unten: SS PAULUS MIKI, IACOBUS KISAI, IOANES DE GOTTO OMNES IAPONES. PRIMUS SOCIUS IESU SCHOLASTICUS, ALTER COADIUTOR TEMPORALIS, TERTIUS TYRO. POSTQUAM INCREDIBILI ZELOREM CHRISTIANAM INTER INFIDELIS PROCURARUNT, NON MINORI CONSTANTIA CRUCIS SUPPLICIUM SUSTINUERE NAGASACHI

コルドーバ, イエズス会の古い聖堂: 油彩画

Cordoba, Antigua Iglesia de la Compañia de Jesús:
Ölgemälde

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁



66 (a, b)

カルモーナ (スペイン), 古いイエズス会の教会: 木彫
(18世紀末?)

Carmona (Spanien), Antigua Iglesia S. J.: Holzskulpturen aus dem Ende des 18. Jh. ?

a) 三木パウロ, b) 五島ジョアン

a) Paulus Michi, b) Johannes Goto

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁, 『日本二十六聖人・長崎』, 27頁, 挿図2



a)



b)

ジュゼッペ・ボエロ『日本イエズス会聖人三木パウロ・五島ジョアン・キ斎ディオゴの生涯と殉教』(ローマ・1862年刊)の銅版鼻絵(10.3×7.2 cm)

Titelkupfer (10.3×7.2cm) zu: *Istoria della vita e de martirio dei santi giapponesi Paolo Michi, Giovanni Soan de Goto e Giacomo Chisai della compagnia di Gesù* compilata dal P. Giuseppe Boero ... Roma 1862. [*Laures 744 (514)*].

上智大学吉利支丹文庫 (KB 535/50/60-78); 東洋文庫 (XVII-10-E-b/40); 慶応大学蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tokyo, Toyo Bunko; Tokyo, Keio Universität

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



ダブリン・1862年刊『三木パウロ・キ斎ディオゴ・五島ジョアンの生涯と殉教』の銅版鼻絵(11.1×7.2 cm)

Titelkupfer (11.1×7.2cm) zu: *The Jesuit Martyrs of Japan. A History of the Lives and Martyrdom of Paul Michi, James Chisai, and John Soan de Goto, by Father Boero of the same Society, translated from the Italian by a catholic priest. Dublin 1862.*

国立国会図書館 (C-227) 蔵

Tokyo, Parlamentsbibliothek

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



69

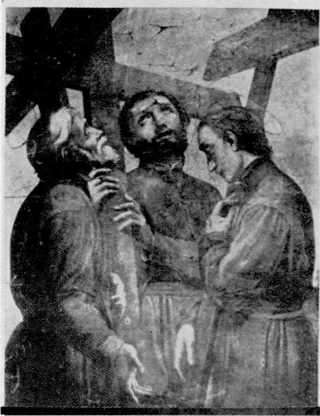
ジョヴァンニ・ガリアルディ (ローマの画家)

Giovanni Gagliardi (Maler in Rom im 19. Jh.;
Thieme-Becker, XIII, 64)

ローマ, イエズス会本部: 油彩画
Roma, Curia S. J.: Ölgemälde

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

図版掲載 Abgegilbet bei: C. Testore, *I Santi Martiri
Giaponesi Paolo Michi, Giovanni de Goto, Giacomo
Kisai S. J.*, Venezia 1939, Abb.; 『聲』729号 (1942
年2月号)



70

サンチアーゴ・パラモ

Santiago Paramo (Bogotá 1841—1915 Bogotá)

ボゴタ (コロンビア), 聖イグナチオ聖堂, サン・ホセ
礼拝堂: テンペラ画, 750×770 cm

Bogotá (Kolumbien), Iglesia de San Ignacio, Capilla
de San José: Tempera, 750×770cm

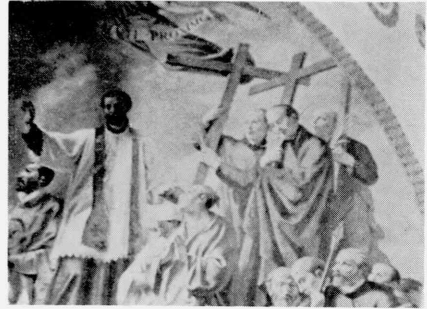
イエズス会の諸聖人 (日本3イエズス会士を含む)

Die Heiligen des Jesuitenordens (darunter die drei
Jesuiten von Japan)

本図の油彩下絵 (78×70 cm) も同聖堂内にある,
“Museo Paramo”に残っている。

Ölskizze (78×70cm) dazu im Museo Paramo (Iglesia
de San Ignacio, Bogotá).

文献 Lit.: E. Ospina, *El Pintor Santiago Paramo
(1841—1941)*, Bogotá 1941, Fig. 31, 43, 63, S. 106ff.,
158ff.; 『日本二十六聖人・長崎』, 28頁挿図



71

ボゴタ, 聖イグナチオ聖堂内パラモ美術館 Bogotá
(Kolumbien), Iglesia de San Ignacio, Museo Paramo



(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

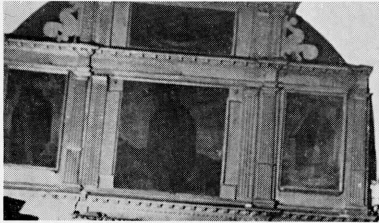
72

ボゴタ, 聖イグナチオ聖堂: 祭壇画

Bogotá, Iglesia de San Ignacio: Altargemälde

(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



73

セビリア, イエズス会の家 (香部屋): 彩陶

Sevilla, Residencia de Sevilla, Sacristia, Capilla doméstica: Farbenkeramik

(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士を伴うキリスト磔刑

Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten



74

長崎, 26聖人記念館: メダル (3.2×2.7 cm), 1846年
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille
(3.2×2.7cm), 1846

銘 Inschrift: S.S. PAULUS. JOAN. JAC. S. J.
MARTYRI JAPON.

他面にピウス9世の肖像 Auf der anderen Seite: PIUS
IX PONT. MAX ELECTUS 16 JUN 1846

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



75

長崎, 26聖人記念館: メダル (3×2.7 cm)

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (3×
2.7cm)

銘 Inschrift: S MM IAP

他面に聖イグナチウス・ロヨラの肖像

Auf der anderen Seit: S. IGNAT. DE LOY. SO. I.

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten



76

長崎, 26聖人記念館: メダル (4.5×4cm)
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (4.5×4cm)

銘 Inschrift: SOCIET. IHS

3 イエズス会士を伴うキリスト磔刑

Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten

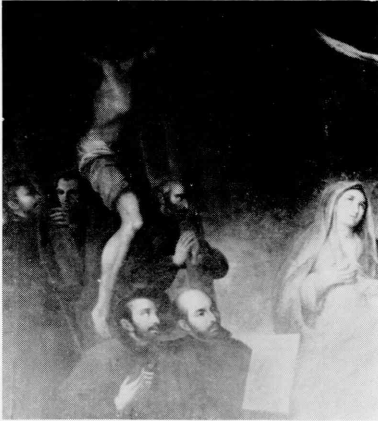


77

グァダラハラ (メキシコ), 博物館: 油彩画
Guadalajara (Mexiko), Museo: Ölgemälde
(図版提供: ディエゴ・パチェコ)

3 イエズス会士を伴うキリスト磔刑

Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten



vi. 3 イエズス会士を表わすその他の作品

Andere Werke, die die drei Jesuiten darstellen

78

ローマ, サン・アンドレアス・アル・キリナーレ, イエズス会修練所: 破壊された17世紀前半のフレスコ壁画
Roma, Noviziat der Jesuiten in S. Andreas al Quirinale: zerstörtes Fresko aus der ersten Hälfte des 17. Jh.

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: Richeome, *Peint. spirituelle*, p. 225 et suiv; *Mâle, Après Trente*, 118

79

カヴァリエーレ・ダルピーノ (本カタログ21参照)
Cavaliere d'Arpino, (Siehe Kat. Nr. 21)

版画作品

Gravüre (nach Mâle: Rome, Est. 37 H. 19.)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118

80

ミシェル(?)・ドリニイ

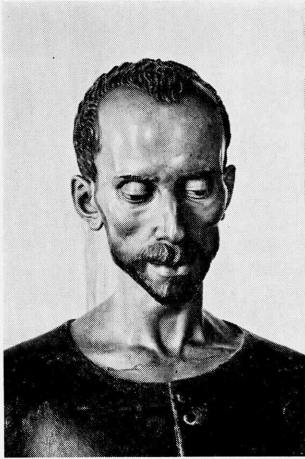
Michel(?) Dorigny (St. Quentin 1617—1665 Paris; Thieme-Becker, IX, 475)

版画作品

Gravüre (nach Mâle: Rome, Est. 27 M. 13 II)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

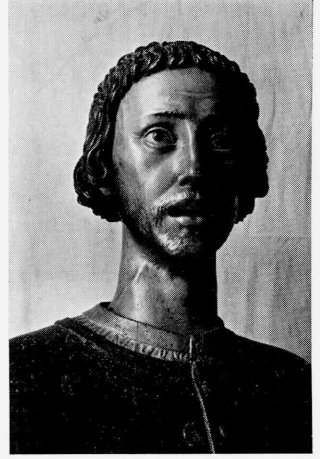
文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118



a



b



c

81 (a, b, c)

フアン・デ・メサ (?)

Juan de Mesa (Cordoba 1583—1627 Sevilla; Thieme-Becker, XXIV, 427) zugeschrieben

セビリヤ, 美術館: 木彫3点 (高さ 166, 162, 173cm) Sevilla, Museo Provincial de Bellas Artes: drei Holzskulpturen—Nr. 460 (Johannes Goto, 166cm hoch), Nr. 491 (Paulus Michi, 162cm hoch) und Nr. 483 (Jakobus Kisai, 173cm hoch)

a) 五島ジョアン, b) 三木パウロ, c) き斎ディオゴ

a) Johannes Goto, b) Paulus Michi, c) Jakobus Kisai

これら3点の彫像は、セヴィリアのイエズマ会の家から美術館に入ったもので、像の身体に着物を着せるように作られているため、頭部・首・手のみが入念に仕上げられている。かつては、フアン・マルティーネス・モンターニエスの作品ないし、そのアトリエの作と考えられていた。

Diese drei Statuen stammen aus la Casa Profesa de la Compañia de Jesús, Sevilla. M. E. Gómez Moreno hielt die Statue des Kisai (Nr. 493) für ein Werk des Juan Martínez Montañes (Alcalá la Real 1568—1649 Sevilla). Hiezu vgl. auch J. Sebastián Banderán, Jesús de la Pasión, obra maravillosa de Martínez Montañes, in: *Boletín de Bellas Artes*, 1937, 162–163. Die Statue des Johannes Goto (Nr. 460) sah M. E. Gómez Moreno hingegen als Werk des Ateliers von Montañes an.

文献 Lit.: (José Hernández Díaz), *Museo Provincial de Bellas Artes, Sevilla*, Madrid 1967, 104, 108, 109; パチュエコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁, 図版;

図版掲載 abgebildet bei: P. Tisné, Spanien, *Bildatlas der spanischen Kunst*, Köln 1968, S. 380 (Abb. 65); 『日本二十六聖人・長崎』, 8頁, 挿図

82 (a, b)

マルセリーノ・ロルダン

Marcelino Roldan (Sevilla 1696—1776 Sevilla; Thieme Becker, XXVIII, 533)

長崎, 26聖人記念館; 祭壇木彫 (高さ138cm), 1732年
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Holzskulpturen (138cm hoch) des Hochaltars, 1732

a) 三木パウロ, b) 五島ジョアン

a) Paulus Michi, b) Johannes Goto

これらの彫像は1970年にヘレス・デ・ラ・フロンテーラ(スペイン)のイエズス会の教会より長崎にもたらされた。祭壇中央には、フランシスコ・ザビエル像, その左右に三木パウロと五島ジョアンとが配置されていた。両者が手にする棕櫚の枝は殉教のシンボルである。

Diese beiden Statuen wurden 1970 von der Jesuitenkirche in Jerez de la Frontera (Spanien) nach Nagasaki gebracht.

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁; 『日本二十六聖人・長崎』, 27頁, 挿図



a



b

83 (a, b, c)

ペドロ・ドゥケ・コルネホ

Pedro Duque Cornejo (Sevilla 1677—1757 Córdoba Thieme-Becker, VII, 424–425)

セビリヤ, イエズス会の家: 木彫胸像3点

Sevilla, Residencia de la compañía de Jesus: drei Büsten (Holz)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

文献: パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁



84

リマ, サン・ペドロ聖堂: 17世紀中頃の絵

Lima, Iglesia de San Pedro: Gemälde aus der Mitte des 17. Jh.

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: R. Vargas Ugarte, *La Iglesia de San Pedro de Lima*, Lima 1956, 48

85 (a, b, c)

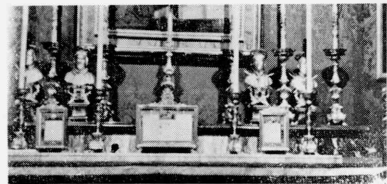
ローマ, イル・ジェズー聖堂, 聖イグナチオの部屋: 遺骨箱の彫刻

Roma, Il Gesù, „Cámara“ de S. Ignacio: Skulpturen auf den Reliquiaren

(図版提供: ディエゴ・パチェコ師)

3 イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献: 『日本二十六聖人・長崎』, 27頁の図版



Vii. フランシスコ会士 6 人、フランシスコ会関係 23 人、および 26 聖人全員を表わす作品
Werke, die die sechs Franziskaner, die 23 Märtyrer, und alle 26 Heilige darstellen

86 (a-f)

リマ、聖フランシスコ聖堂聖歌隊席：木彫高浮彫り（杉材；像の高さ約 60cm）、1674年頃
 Lima, Iglesia de San Francisco, Silleria del Coro: Holzhochreliefs (Höhe der Figur: ca. 60cm), um 1674

フランシスコ会の殉教者像（1597年長崎における殉教フランシスコ会士 6 名を含む）
 Die Märtyrer des Franziskaner-Ordens (darunter die sechs Franziskaner von den 26 Märtyrern in Nagasaki im Jahre 1597)

聖歌隊席は、フライ・ルイス・デ・セルベイラ（Fray Luis de Cervela）の首唱のもとに構築された。椅子席の背後上方に一列に並ぶフランシスコ会諸聖人の高浮彫りのうち、6 人は自ら運ぶ槍と十字架からして1597年の長崎の殉教者像と推定される。リマ・バロックの代表的作品とされる。

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」、181-182頁；『日本二十六聖人・長崎』、27頁挿図



87

リマの聖フランシスコ修道院門衛所にあった絵（現在行方不明）

Lima, Kloster San Francisco, Wachlalkal: verschellenes Gemälde

23フランシスコ会関係殉教者

Die 23 Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」、184頁

88 (a-e)

長崎、26聖人記念館：銅版画 5 点、18世紀？

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: 5 Kupferstiche aus dem 18. Jh.?

各葉下部に付された銘
 Inschriften unten am Rande jedes Blattes: B. FRANCISCUS BLANCO Sacerdos et Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. FRANCISCUS A S. MICHAELE Laicus Martyr Iappon Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. CONSALVUS GARZIA Laicus Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. PHILIPPUS A IESU Clericus Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. LEO CARAZUMA Martyr Iappon, 3. Ord. occubuit an. 1597.

1597年長崎における殉教者のシリーズより：フランシスコ・ブランコ、フランシスコ・デ・サン・ミゲル、ゴンサロ・ガルシア、フェリーペ・デ・ヘスース、鳥丸レオン

Aus dem Zyklus der Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597

銘に B (eatus) とあるところから、1862年の列聖以前のもので、恐らく23人のフランシスコ会関係殉教者のシリーズ中の一部と思われる。



キアーリ (アレッサンドロ・キアーリ?)

Chiari (Alessandro Chiari?: Thieme-Becker, VI, 484)

1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた絵 (現所蔵者不明)

Gemälde, das bei der Kanonisation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt war: jetziger Besitzer unbekannt

銘 Inschrift: QUI. CHRISTI. D. CRUCE. PARTAM/CRUCE. FIDEM CONFIRMASTIS/ADEST. CATHOLICIS / UTI. NEQUOS / PRAECLARA. SPECIE. DECEPTOS / CRUCIS. INIMICI/IN. VETERUM. ERRORUM. COENUM / REIICANT

フランシスコ会関係23殉教者の栄光

Die Glorie der 23 Märtyrer

文献 Lit.: *Descrizione dell'Apparato ...* (siehe Kat. Nr. 33), p. 41

90

ベルガラ (スペイン), 聖ペドロ聖堂: 1862年頃の絵
Vergara (Spanien, Vizcaya), Iglesia de San Pedro:
Gemälde um 1862

フランシスコ会関係23殉教者の栄光

Die Glorie der 23 Märtyrer

この絵は, 1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた。(本カタログ 89 の作品とあるいは同一かもしれない。)

Dieses Werk war bei der Kanonisation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt. (Es ist eventuell mit



dem Gemälde Kat. Nr. 89 identisch.)

図版掲載: 『日本二十六聖人・長崎』, 28頁挿図

91 (a-z)

岡山聖虚 (明治37年広島に生まれる)

Franz Seikyo Okayama (geb. in Hiroshima 1904)

ローマ, ラテラノ伝道博物館

Roma, Museo Missionario-Lateranense

日本26聖人像シリーズ

Zyklus der 26 Japanischen Heiligen

文献 Lit.: 岡山聖虚「26聖人画像の製作断片」, 『聲』664, 1931年, 348-350頁; S. Schüller, *Neue christliche Malerei in Japan—Bilder und Selbstbiographien der bedeutendsten christlich-japanischen Künstler der Gegenwart*, Freiburg i. Br. 1939, 69ff.; C. Costantini, *L'arte cristiana nelle missioni—Manuale d'arte per missionari*, Vaticana 1940, 230 ff.



92 (a-z)

愛久沢勇悟 (明治42年愛媛県に生まれる)

Yugo Akuzawa (geb. in der Ehime-Präfektur 1909)

長崎, 26聖人記念館: 木版画26点 (35.5×23.7cm), 1962年



Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: 26 Holzschnitte
(35.5×23.7cm), 1962
日本26聖人像シリーズ
Zyklus der 26 Japanischen Heiligen

93
中田秀和 (本カタログ47参照)
Hidekazu Nakata (Siehe Kat. Nr. 47)
山口, サビエル記念堂, 内陣: 壁画, 昭和26年
Yamaguchi (Japan), Franz-Xaver-Gedenkkirche,
Apsis: Fresko, 1951
聖フランシスコ・サビエルに卒いられた等身大の日本26
聖人・福音イサベラ・高山右近・細川ガラシア
Hl. Franziskus Xaver mit den 26 Japanischen
Heiligen, Beatus Isabella, Ukon Takayama und
Garcia Hosokawa
文献: 中田秀和「26聖殉教者作画の思出」, 『カトリック
新聞』, 1954年1月31日号, 挿図



94
長谷川路可 (本カタログ49参照)
Luka Hasegawa (siehe Kat. Nr. 49)
大阪, 南蛮文化館: 油彩画, 111×241cm, 1956年
Osaka, Nanban Bunka Kan: Ölgemälde, 111×
241 cm, 1951
1596年長崎における殉教
Das Martyrium in Nagasaki im Jahre 1596
文献: 『長谷川路可展』, 大阪・南蛮文化館, 1972年, 図
38



95
舟越保武 (大正元年岩手県に生まれる)
Yasutake Funakoshi (geb. in der Iwate-Präfektur
1912)
長崎, 西坂公園, 日本26聖人記念碑: ブロンズ・レリーフ,
1962年
Nagasaki, Munument der 26 Japanischen Heiligen:
Bronzehochreliefs, 1962
日本26聖人像
Die Japanischen 26 Heiligen
習作素描が数点長崎・26聖人記念館にある。
Einige Vorzeichnungen dazu befinden sich im
Museum der 26 Märtyrer zu Nagasaki
文献 Lit.: 『キリシタン研究』 VIII, 1963年, 図版: 舟
越保武「聖人像の制作を了えて」, 『長崎談叢』 第40輯,
22-23頁; 藤本四八 (撮影) 『長崎26殉教者——舟越保武
彫刻作品集』, 美術出版社1963年, (The 26 Martyrs of
Nagasaki by Yasutake Funakoshi, Tokyo 1963)

